

令和6年度
市民と語る会報告書

令和7年2月
庄原市議会

令和6年度 庄原市議会市民と語る会報告書 目次

| | |
|------------------------|----|
| 1. 開催趣旨 | 1 |
| 2. 実施結果(開催日時、場所、参加者数等) | 1 |
| 3. 意見交換テーマ | 3 |
| 4. 次第 | 4 |
| 5. 班編成 | 4 |
| 6. テーマに対する懇談内容 | |
| (1) 井戸端スタイル | 5 |
| (2) 自治振興区 | 10 |
| 7. 意見交換 | |
| (1) 井戸端スタイル | 27 |
| (2) 自治振興区 | 28 |
| 8. その他(自由意見) | |
| (1) 井戸端スタイル | 29 |
| (2) 自治振興区 | 30 |
| 9. 議会に対する意見・要望 | |
| (1) 井戸端スタイル | 32 |
| (2) 自治振興区 | 32 |
| 10. 執行者に対する意見・要望 | |
| (1) 井戸端スタイル | 34 |
| (2) 自治振興区 | 36 |
| 11. 市民と語る会の検証結果 | 40 |

※本報告書における内容は、議員が構成する各班により取りまとめられた報告書に基づき作成しています

1. 開催趣旨

庄原市議会基本条例第5条第3項の規定に基づき、市民が議会の活動に参加できるような懇談会、議会報告会等を開催する。

令和3年度より、「議会報告会」を「市民と語る会」に名称変更し、市民との意見交換に重点を置いた内容で実施している。

また、令和5年度から、広聴の取り組み強化のため、自治振興区単位での取り組みに加え、手上げ方式による「井戸端スタイル」を開始した。

令和6年度は、自治振興区単位での取り組みについて事前に実施の意向を確認し、希望のあった自治振興区での実施に改めた。

2. 実施結果（開催日時、場所、参加者数等）

（1）井戸端スタイル

| NO | 申込者名 | 開催日 | 開催時間 | 会場 | 担当班 | 参加者数 |
|-----|---------------------|-----------|-------------|--------------------|-----|------|
| 1 | 庄原の人口問題を考える 民間会議 | 7月11日（木） | 13:30~15:30 | 庄原市ふれあいセンター | 1班 | 4人 |
| 2 | 三河内寿老人クラブ | 7月17日（水） | 9:00~10:45 | 三河内小和田南集会所 | 2班 | 13人 |
| 3 | 庄原の人口問題を考える 民間会議 | 10月16日（水） | 13:30~15:30 | 庄原自治振興センター 研修室B | 3班 | 5人 |
| 4 | 議員さんと語る会 | 11月2日（土） | 14:00~16:00 | 庄原駅舎地域交流室 | 4班 | 10人 |
| 合 計 | | | | | | 32人 |

（2）自治振興区

| NO | 地域 | 地区 | 開催日 | 開催時間 | 会場 | 担当班 | 参加者数 |
|----|----|-----|-----------|-------------|-------------|-----|------|
| 1 | 庄原 | 庄原 | 8月27日（火） | 19:00~20:30 | 庄原自治振興センター | 4班 | 39人 |
| 2 | 庄原 | 峰田 | 7月19日（金） | 19:00~21:00 | 峰田自治振興センター | 4班 | 17人 |
| 3 | 庄原 | 敷信 | 10月4日（金） | 19:00~20:35 | 敷信自治振興センター | 1班 | 13人 |
| 4 | 庄原 | 東 | 7月12日（金） | 18:30~20:30 | 東自治振興センター | 2班 | 22人 |
| 5 | 庄原 | 北 | 11月12日（火） | 19:00~21:00 | 北自治振興センター | 4班 | 6人 |
| 6 | 西城 | 西城 | 11月14日（木） | 19:00~21:00 | 西城自治振興センター | 1班 | 39人 |
| 7 | 東城 | 小奴可 | 7月23日（火） | 18:30~20:30 | 小奴可自治振興センター | 2班 | 19人 |
| 8 | 東城 | 八幡 | 11月19日（火） | 19:00~21:00 | 八幡自治振興センター | 3班 | 11人 |
| 9 | 東城 | 田森 | 11月22日（金） | 19:00~21:00 | 田森自治振興センター | 1班 | 16人 |
| 10 | 東城 | 東城 | 11月15日（金） | 19:00~21:00 | 東城自治振興センター | 2班 | 15人 |
| 11 | 東城 | 帝釈 | 7月22日（月） | 19:00~21:00 | 帝釈自治振興センター | 1班 | 31人 |
| 12 | 東城 | 久代 | 11月20日（水） | 19:00~20:50 | 久代自治振興センター | 4班 | 7人 |
| 13 | 口和 | 口和 | 11月11日（月） | 19:00~20:30 | 口和自治振興センター | 3班 | 18人 |
| 14 | 高野 | 高野 | 7月18日（木） | 19:30~21:10 | 上高自治振興センター | 3班 | 14人 |
| 15 | 比和 | 比和 | 11月8日（金） | 19:00~21:00 | 比和自治振興センター | 2班 | 10人 |

| | | | | | | | |
|------------|----|----|----------|-------------|------------|----|-------------|
| 16 | 総領 | 総領 | 7月24日(水) | 18:30~20:30 | 総領自治振興センター | 3班 | 31人 |
| 合 計 | | | | | | | 308人 |

(参考) 年度別開催状況

| 年度 | 期間 | 開催時間 | 会場数 | 参加者数 | 班数 |
|--------|-------------------------------|---|-----|-------------------------|---------|
| 平成23年度 | 平成23年7月1日~21日 | 19:00~21:00 | 22 | 488 | 8 |
| 平成24年度 | 平成24年7月3日~20日 | 19:00~21:00 | 21 | 369 | 8 |
| 平成25年度 | 平成25年7月3日~18日 | 19:00~21:00 | 21 | 328 | 5 |
| 平成26年度 | 平成26年7月3日~18日 | 19:00~21:00 | 21 | 430 | 5 |
| 平成27年度 | 平成27年7月3日~24日 | 19:00~21:00 | 22 | 445 | 7(内特設2) |
| 平成28年度 | 平成28年7月11日~21日 | 19:00~21:00 | 24 | 一般375 特設415 合計790 | 8(内特設3) |
| 平成29年度 | 平成29年7月3日~8月29日 | 19:00~21:00 | 24 | 一般427 特設426 合計853 | 8(内特設3) |
| 平成30年度 | 平成30年7月3日~ 令和元年1月30日 | 19:00~21:00 | 20 | 一般255 特設293 合計548 | 7(内特設2) |
| 令和元年度 | 令和元年7月3日~19日 | 19:00~21:00 | 25 | 一般329 特設256 合計585 | 7(内特設4) |
| 令和2年度 | ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止 | | | | |
| 令和3年度 | 令和3年11月1日~17日 | 19:00~21:00 | 21 | 振興区382 団体15 合計397 | 4 |
| 令和4年度 | 令和4年11月1日~18日 | 19:00~21:00(18会場) 18:30~20:30(3会場) 13:30~15:30(1会場) | 22 | 振興区329 団体6 合計335 | 4 |
| 令和5年度 | 令和5年11月2日~ 令和6年2月14日 | 19:00~21:00(22会場) 19:10~21:10(1会場) 18:30~20:30(2会場) 13:00~15:00(1会場) 13:30~15:00(1会場) 13:30~15:30(2会場) 12:30~13:30(1会場) | 30 | 振興区318 団体91 合計409 | 4 |

3. 意見交換テーマ

(1) 井戸端スタイル

| NO | 申込者名 | テーマの内容 |
|----|---------------------|--|
| 1 | 庄原の人口問題を考える 民間会議 | ・若者と子供が激減する中でいかにして庄原の消滅を防ぐのか |
| 2 | 三河内寿老人クラブ | ・米価の低迷問題 ・学校の統合問題 ・地域観光の取り組み ・老人会の今後の取り扱いについて |
| 3 | 庄原の人口問題を考える 民間会議 | ・若者と子供が激減する中でいかにして庄原の消滅を防ぐのか |
| 4 | 議員さんと語る会 | ・子どもたちと多世代の集いの場整備事業 ・市職員の早期退職に関わる課題と解決策 ・年度当初の事業計画の公報 ・自治会に加入しない背景がある問題 ・事業の優先順位 |

(2) 自治振興区

| NO | 地域 | 地区 | テーマの内容 |
|----|----|-----|---|
| 1 | 庄原 | 庄原 | ・地域の生活課題の解決に向けて ・地域の教育条件の充実に向けて |
| 2 | 庄原 | 峰田 | ・人口減少について |
| 3 | 庄原 | 敷信 | ・議員定数の改正について ・空き家対策について |
| 4 | 庄原 | 東 | ・自治振興区活動の方向性について地域づくりにおいて今、振興区に求められること |
| 5 | 庄原 | 北 | ・10年先の庄原市を見据えて |
| 6 | 西城 | 西城 | ・子育て支援の施策の充実 |
| 7 | 東城 | 小奴可 | ・議員の描く自治振興区像 ・地域の環境（道路、スポーツ広場） |
| 8 | 東城 | 八幡 | ・地域交通について |
| 9 | 東城 | 田森 | ・行政と住民とが一体となった地域環境整備のあり方について ・粟田小学校統合後における学校跡、跡地利用を通じての地域活性の方向について |
| 10 | 東城 | 東城 | ・東城地域における災害対策 |
| 11 | 東城 | 帝釈 | ・自治振興区のあり方について ・地域交通について ・農地利用地域計画について |

| | | | |
|----|----|----|---|
| 12 | 東城 | 久代 | ・特産品振興とその高齢化対策 |
| 13 | 口和 | 口和 | ・耕作放棄地対策と地域景観保全について |
| 14 | 高野 | 高野 | ・地域交通 |
| 15 | 比和 | 比和 | ・持続可能な地域づくりに向けて人口減少や地域の担い手不足をどうやって解決すればよいか |
| 16 | 総領 | 総領 | ・持続可能な地域社会づくりについて（空き家になりつつある市営住宅について） ・公共交通システムの再編について |

4. 次第

（自治振興区）

- ①受付（アンケート配布）
- ②開会（あいさつ）
- ③趣旨説明等
- ④前年度の意見・要望の対応状況報告
- ⑤意見交換及び懇談

テーマに関するもの及びその他自由意見（共通テーマ含む）

- ⑥閉会（あいさつ） ※開会后2時間を目安
- ⑦アンケート回収

※井戸端スタイルについては、原則申込者の進行により実施

5. 班編成

| 班名 | 代表者 （班長） | 構成員 | 担当（井戸端スタイル） | 担当（自治振興区16会場） |
|----|-------------|----------------------------|------------------|----------------------|
| 1班 | 近藤 久子 | 堀井 秀昭 福山 権二 藤木百合子 横路 政之 | ・庄原の人口問題を考える民間会議 | 敷信、西城、田森、帝釈 （4会場） |
| 2班 | 吉川 遂也 | 國利 知史 谷口 隆明 赤木 忠徳 徳永 泰臣 | ・三河内寿老人クラブ | 東、小奴可、東城、比和 （4会場） |
| 3班 | 坂本 義明 | 桂藤 和夫 前田 智永 松本みのり 政野 太 | ・庄原の人口問題を考える民間会議 | 八幡、口和、上高、総領 （4会場） |
| 4班 | 坪田 朋人 | 五島 誠 宇江田豊彦 藤原 洋二 林 高正 | ・議員さんと語る会 | 庄原、峰田、北、久代 （4会場） |

6. テーマに対する懇談内容

(1) 井戸端スタイル

NO. 1 庄原の人口問題を考える民間会議

テーマ：若者と子供が減少する中でいかにして庄原の消滅を防ぐのか

| 参加者意見 | 議員意見 |
|---|---|
| 家庭の財政状況が良ければ、子どもは増えると思う。 | |
| 子育てをしようとする家庭に対しては、安心して出産できる対策が必要ではないか。 | |
| 島根県美郷町の子育て支援策のような、よそから見て庄原はいいよねと言われたい。市民にとって情報だけでなく、利用料が無料になるなどの具体的な施策が欲しい。 | |
| コロナもあって、集まる場所が少なくなってきている。試行錯誤してきたが、あまり成果がでていない。市の制度を市民が知らないことが多いのではないかと。又、庄原市民が庄原に興味を持っていないのではないかと。 | |
| 庄原市で自分のできることは何かを考えてきた。庄原市は予算がついていないので、テレワークも難しい。田舎ならではの予算を活かしたテレワーク等が実践できればと思う。 | 若い人は家庭でテレワークをしている人もいます。 |
| | 少子化対策は国の方針ではあるが、地方のやり方がわからない。地方議員として、何ができるのかジレンマがある。子育て支援は庄原市もやっているが、トータルとしての発信が少ないかなと感じている。日本は学費が高い。無償化を訴えてきたが、市民からも訴える組織づくりをしてほしい。給食費の無償化もしかり。 |
| | 消滅可能な自治体から、今回、庄原市は免れているが、人口減少は将来にわたって大きな影響がある。議員も含めて、どのように考えていくのかを議論する必要がある。 |
| | 国は「こども未来戦略」として次元の異なる少子化対策の実現に向け、子ども・子育て政策の基本的な考え方を打ち出した。そこには僅か50年で我が国は人口の1/3を失う恐れがあると記されている。2030年に向けてのラストチャンスととらえ、基本理念の中には、①若い世代の所得を増やす、②社会全体の構造・意識を変える、③全ての子ども・子育て世帯を切れ目なく支援するとある。「こども家庭庁」の立ち上げもある。地方自治体のみでは、解決できない少子化対策については、国が主導して進めるべきである。給食費の無償化も同様。 |

| | |
|---|---|
| <p>人口減少対策は、それぞれの市町村が取り組んでいるが、成果が出ている自治体とそうでない自治体がある。</p> | <p>庄原市の子育てに関する取り組みは、県内ではトップクラスであると思う。広島県が進めている「ネウボラ」に関しても、妊娠期からの見守りを含めて。</p> <p>庄原市は広すぎる。周知が難しい面もあるのでは。</p> |
| <p>まずは町に魅力がない。一番違うのは危機感である。制度にも差がある。一番重要なことは情報共有である。ほとんどの市民は無関心。</p> | |
| <p>行政の立ち上げている「庄原市人口減少対策戦略本部」の議論の内容がわからない。構成員が内部の幹部職員のみで、市民代表は一人もいない。若者、女性の声が全く反映されていない。</p> | <p>我々は決算審査をしているが、統括はしていない。</p> |
| <p>令和5年の出生数121人をどう思うか。</p> | <p>10年先、庄原では小・中学校が激減するのではという危機感がある。</p> |

NO. 2 三河内寿老人クラブ

テーマ1：米価の低迷問題

| 参加者意見 | 議員意見 |
|---|---|
| <p>中山間地域等直接支払制度が今年度で終わると聞いたが、今後は継続されないのか。</p> <p>中山間地域等直接支払制度があるために米の値段が低いのではないか。高齢となり米作を公社に委託しているが採算が合わない。中山間地域等直接支払制度を止めて米を高くしてほしい。</p> | <p>今後廃止になるという情報は国から入っていないので、今後も継続されると思う。</p> <p>昨年の酷暑、インパウンドの増加などで今、米不足の状態になってきている。今年の米価は上がるのではないか。</p> <p>中山間地域等直接支払制度を廃止してしまうと、個人で農業をやるとさらに厳しくなると感じる。補助金がなくなると、更に農業をする人が減っていくと思う。</p> <p>中山間地域等直接支払制度は日本の農地、風景を守っていくという側面もある。</p> <p>中山間補助金は農家収入になっている場合もある。農地が狭い中山間地域でも米作りが出来るようにというシステム。多面的機能支払い交付金と合わせて有効に使っているところもある。</p> <p>山内では竹パウダーと地元の牛糞で堆肥を作り、米作りを行っている。ブランド米として通常よりは高値で販売する仕組みを構築している。三河内地区は栽培環境も良く、棚田を活かした付加価値を付けた米として販売できれば良いと思う。</p> |
| <p>田舎が成り立たなくなったのは農業で食べられなくなったことが大きく、多くの人々が都会に出ていった。これを食い止めるのが政治家の仕事であると思う。国や県に届けてほしい。</p> | <p>本来農家の見方であるべき農協が国に働きかけを行わなければならない。私たち議員もこの問題について一丸となって意見を届けていくのが仕事だと思う。</p> |

テーマ2：学校の統合問題

| 参加者意見 | 議員意見 |
|---|---|
| <p>生徒数が少ない比和中学校は今後どうなるのか。合併すれば子供や若い人はいなくなり、地域が衰退する。</p> | <p>中学校の統合問題は現在白紙になっているが、高野や口和では三次に通う生徒も増えている。</p> <p>個人的には合併は反対だが通学の時間など生徒さんの負担を考えれば難しい問題だと思う。今後の課題として教育民生常任委員会で話をしている。</p> |
| | <p>地域の方は存続を望んでいるが、保護者の方は統合を望むという両者の思いが違う場合がある。他地域では最後は保護者の思いを尊重して統合という形になった地域がある。まずは保護者の方々としっかりと話し合いをすることが良いと感じる。</p> |

テーマ3：地域観光の取り組み

| 参加者意見 | 議員意見 |
|--|---|
| <p>庄原にもっと観光客が来てもらえるようにすべきと感じる。住民がやるのは難しいので市が先導していかなければならないと思う。</p> | <p>昨今 SNS の普及により、画像を見て旅先を決めるのが主流になりつつある。SNS を十分に活用して PR していくのが良いと感じる。</p> |
| | <p>三河内は棚田テラスや古民家ステイズ長者屋などがあり観光客を誘致するには良い場所だと感じる。可能性がある地域だと思う。</p> |
| | <p>現在広島までは海外からのインバウンド客が多く訪れている。広島から庄原までどのように観光客を誘致してくるかが課題だと感じる。</p> |
| | <p>瀬戸内はしまなみ海道を中心としたサイクリングの聖地として全国からサイクリストが訪れている。そのサイクリストを庄原市に誘致できないか個人的に動いている。比和町にはいざなぎ街道も通っており、道の駅高野から東城の道の駅まで魅力的なコースとなり、十分可能性があると感じている。</p> |

NO. 3 庄原の人口問題を考える民間会議

テーマ：若者と子供が減少する中でいかにして庄原の消滅を防ぐのか

| 参加者意見 | 議員意見 |
|---|--|
| <p>医療介護費が高い。高齢者にとって必要と言っても、どんどん出せばいい訳ではない。子育て施策について、議員が奈義町に負けていないと言うが、出生数が減少し続け、成果がでていないのだから、負けていないというのはおかしい。</p> | <p>奈義町に負けていない子育て施策がある。PR が足りていないのは間違いない。市独自の良い施策もある。</p> |

| | |
|---|---|
| <p>庄原市の魅力とは何かを明確にしないと施策展開できないと思う。魅力があれば、必然的に人は増えると思う。</p> | <p>地理的には恵まれていると思うし、良い施設も多くある。PRが足りていない。クジラの骨や縁結び事業、庄原ファンクラブも良い取り組みだと思う。奨学金制度や農業地域計画などしっかりまとめていかなければいけないと思う。林業についても稼ぐ林業が出来ると思う。</p> |
| <p>東城のぼんぼこ山保育所は、小規模保育所だが、民間で都市部には出来ない自然保育をしていて人気がある。定員を超え入所を断っている状況。元々公営だったものを民間で懸命に運営しており、行政や議員で方策を進めて欲しい。</p> | <p>定員を超えている状況は理解している。自然保育や送迎サービスが魅力だと聞いている。議員も同じ思いで応援していることは理解いただきたい。</p> |
| <p>同級生は都市部に出てしまっている。庄原は住むところや仕事がないと言われる。自分自身は地域マネージャーをやっているが、お金にならず、熱量だけでやっている状況で将来の不安がある。持続可能ではないと思っている。就業支援や家賃支援など良いものがあれば教えて欲しい。</p> | <p>都市部に出て帰ってきたが、時間がゆっくり動くこと、自然の豊かさ、食べ物の甘さや美味しさに改めて気付いた。家賃支援については邑南町の良い取り組みや口和や山内の空き家対策など市全体に施策展開する必要があると思う。</p> <p>自分自身もまちづくりに時間もお金も費やして頑張ってきた。やればやるほど不安になる気持ちがよくわかる。若い皆さんが頑張っていることを市民の皆さんは絶対に見てくれている。どうか一緒に頑張りを続けて欲しい。民間の補助金もたくさんある。市の職員も情報をもっているはずなので、市で聞いてみて欲しい。</p> |
| <p>「庄原においで」と言えるまちじゃない。子育てしやすいまちだと思えない。中学校部活動が出来なくなるのも疑問。</p> | <p>地域コミュニティを知らずに庄原に来たので、人、自然、コミュニティはとても魅力だと思う。都会にはない庄原の魅力をもっと伸ばして欲しい。小規模保育所や教育をもっと出来るはずだと思っている。高校の通学費も課題。</p> <p>部活動は無くなる訳ではなく、地域移行をしていく国の方針。もちろん残したいと思っている。教員負担、働き方改革の一環だが、スポーツ少年団や民間クラブも多くあり、現在も学校を超えて合同チームで運営している状況。庄原ではどうしていくのかを考えていなくてはならない。</p> |
| <p>全国で人口減少と言われているが、奈義町や明石市など成果をだしているところもある。成果をだしていない庄原市は失敗した施策もあり、数十年後には町が無くなるのではと危機感を持っている。行政も議員も本気で取り組む気があるのか。</p> | <p>明石市の最大の効果は好循環だったのではと思う。庄原のイメージが悪くなっているのではと思う。確かに効果が見いだせていなかった施策もあるが、手法があれば帰ってくるかと言えばそうではない。目標を定め、市民と一緒にトライしていける市であれば、消滅することはないと思う。</p> |

NO. 4 議員さんと語る会

テーマ1：子どもたちと多世代の集いの場整備事業

| 参加者意見 | 議員意見 |
|---|--|
| 本年度の当該事業予算（3300万円）は使われているのか？ | 現在は使用されていない。10月、11月、12月に利用予定。 |
| 計画変更が議会を通さずに進められたことに不満。特にバイオマス利用に関して市民が知らないうちに進められた、議会が責任を取るべきだ。 | 計画変更は今後議会に議案として提出される。予算案は議会の承認を受けているが、計画変更については議会を通じて進めることになる。 |
| 市民への広報と意見聴取に関する提案：事業計画が市民に十分に伝わっておらず、市民の声を聴く機会が少ないと感じている。広報の段階で市民に計画内容を知らせ、その後に意見を集める機会を設けてほしい。 | 市の事業計画については、広報で市民に周知し、その後に意見を収集する手立てを考慮する。 |

テーマ2：市職員の早期退職に関わる課題と解決策

| 参加者意見 | 議員意見 |
|---|--|
| 市職員の早期退職により、行政サービスに影響が出ている可能性がある。これについて早期退職を防ぐ施策を検討する必要がある。 | 早期退職問題については、第三者委員会の設置を含む検討を行うといった対応も考えられる。行政の運営において人員不足が問題となっており、これに対処するための対策が進められる。 |

テーマ3：年度当初の事業計画の公報

| 参加者意見 | 議員意見 |
|---|---|
| 予算案と事業計画が広報される前に、市民がその内容を十分に理解できるよう、予算案が出される前に事前に情報提供を行い、市民の声を反映させる手段を講じてほしい。 | 計画案と予算案は一緒に提出されており、市民への広報と意見聴取をしっかりと行う必要性を認識している。 |

テーマ4：自治会に加入しない世帯がある問題

| 参加者意見 | 議員意見 |
|---|--|
| 現在、自治会に加入しない世帯が増えており、その実態と問題点を指摘。特に、自治会未加入者の生活実態が把握できないことが問題とされている。 | 自治振興区の役割として、自治会に加入しない世帯に対して行政が積極的に働きかけ、地域全体の生活実態を把握する必要があると認識している。 |

テーマ5：事業の優先順位

| 参加者意見 | 議員意見 |
|--|--|
| 事業計画を決める際に、優先順位をどう決定するかについて市民が納得できる形での説明を求める。特に、横断的な視点で事業を優先順位付けする機関があれば良い | 優先順位を決める際、委員会が縦割りであることが問題だが、横断的な視点を取り入れることは重要であり、議長とその方向について話し合いをしている。 |

(2) 自治振興区

NO. 1 庄原地域庄原地区

テーマ1：地域の生活課題の解決に向けて

| 参加者意見 | 議員意見 |
|--|---|
| <p>少子化による子ども会活動の減少について、賑わいづくりの観点からも政策的な対応が必要ではないかという思いがある。</p> | <p>少子化は全国的な課題であり、子ども会については手つかずの状況なので、議会での議論が必要であればそういった意見を出し、伝えて欲しい。</p> |
| <p>子どもが少ないことと、スポーツクラブなどの活動もあり、行事の企画が難しく、参加もできない状況にある。</p> | <p>地元の祭りへの参加や子ども会について、様々な場面での課題がある状況。今後はどのような形態や活動が良いのか、整理を含め、新たな形の模索が必要なのかと考える。</p> |
| <p>子ども会の所属は多いが、近年は小規模な集まりが主流になっている。</p> | |
| <p>車いす利用者のタクシー利用ができないと断られたことがあり、夜間のタクシー運行がなくなったことで救急搬送後の帰宅方法にも課題があると考えているが、どうしていくのかあれば教えていただきたい。</p> | <p>夜間のタクシー運行がなくなった影響を調査してみたが、実際は事例がほとんどない状態である。車いすに関しては、タクシー会社の規定による。現状で対応している社会福祉協議会があったが、対応できなくなる予定。また、民間でも対応しているが、職員負担や経済負担が大きく、課題が残る状況である。</p> |
| <p>買い物支援というタクシーの運行については、もっと暖かい見方で、弱者を救うという本来の福祉の在り方に立ち戻って検討すべきであると思う。</p> | |
| <p>タクシー業界は営利目的であるが、公共交通で成り立っていて、補助金などをもらっているはずだ。これをどこに使用しているのか。タクシー業界や公共交通の会社へ、地域の人が困っていることを力強く議会、行政から要請をしてもらい、よりよい公共交通が実現できるようにしてほしい。</p> | <p>タクシー業界への補助については、一般用については行っておらず、市民タクシーや乗り合いタクシーなどの公共性の高いものに関して補助を行っている状況である。タクシー業界の経営状況を聞くと、運転手不足が一番の課題となっており、かつ賃金も多くない。無理を言って稼働していただいている状況である。タクシー会社も何とかしたいという思いがあるが、なかなかできない。運行管理も行わなければならないといった状況にあると認識している。</p> |
| | <p>タクシーだけで考えることは、市民交通は難しい。市民の皆さんの本当に困っていることを知る中で、議会としても今後を考えていかなければならない本年度で方向性まで明らかにするのは難しいかもしれない。市民の皆さんが本当に感じていることの意見を集約して、状況を把握することが必要である。</p> |

テーマ2：地域の教育条件の充実に向けて

| 参加者意見 | 議員意見 |
|--|---|
| <p>永末小学校の教室不足と放課後児童クラブの狭さについてなどの要望書を提出したので、その現状について教えてほしい。</p> | <p>議会の教育民生常任委員会で報告書を提出した。内容は、永末保育所の改善と放課後児童クラブの運営強化の要望などで、市民や使用者に意見を求めて一緒に進めていく必要があると申し添えている。</p> |

| | |
|---|--|
| 永末児童クラブについて、子どもの声として、トイレについてもあったので、素早い対応を行い、改善してほしい。 | |
| 要望書を提出したので、ぜひ対応してほしい。永末保育所の扱いや存続について、次回、初めて教育委員会が話し合いを行っていたので、よりよい方向へ進めていかなければならない。 | |
| 統廃合について、永末は凍結という無責任なものではなく、将来を見据えた結論が必要である。また、判断に使用した資料などを開示してほしい。 | |

NO. 2 庄原地域峰田地区

テーマ：人口減少について

| 参加者意見 | 議員意見 |
|--|---|
| 峰田の人口減少と空き家問題についての懸念。特に、空き家が増え、その土地や田んぼをどのように管理されているかについての疑問（草刈りなど、ボランティアは可能なのか等）があった。 | どこでも人口減少が課題となっており、荒廃地も存在すると認識をしている。 |
| 退職後に帰郷し、有機農業に取り組んでいる市民からの提案。大学生や子供たちに有機農業を体験させ、地域に定住してもらうことで人口減少対策につなげていけるのでは。 | 体験で作物を作っても、商業ベースに乗ることは難しい。特に、有機農業については、研究は進んでいるものの、商業ベースにはなっていないと認識している。 |
| 長期総合計画の評価指標について、具体的な数字などを用いて誰でも理解できるように見直してみてもどうか。 | 評価指標については、議会がきちんとしていく必要がある。 |
| タクシーがなくなったことによる困難。特に、救急車で病院に行った後、自宅に戻る手段がない。 | タクシー問題については、市議会の中で地域生活交通に係る調査特別委員会が設けられ、対策を考えている。 |
| 若者が庄原に帰りたくないという意見。また、若者が帰ってきても仕事がないという問題があること。 | |
| 空き家をリサイクルし、宿泊体験などに利用してはどうか。 | 空き家をリサイクルする取り組みについては、口和自治振興区が行っており、最近が増えたが、利用者が少ない時期もあり、どのようにするのが最適なのかを検討中。 |
| 人口が減少し、自治会が自治振興区から脱会している現状についての懸念があること。 | 自治会が合併した事例があり、初めての事なので、それを成功となるようにしていきたい。 |

NO. 3 庄原地域敷信地区

テーマ1：議員定数の改正について

| 参加者意見 | 議員意見 |
|--|------|
| 議員定数削減や報酬については、その判断を尊重する。ただ、定数減になっても市の面積は変わらない。議員の全くいない地域が出てくる。1減の結果から想定される「市全域に対する議会活動の希薄化」への対策、問題意識はもっているのか。 | |

| | |
|---|--|
| <p>月に1回は話を聞く会を設けてはどうか。一つのシステムとして考えられないか。</p> <p>「市民と語る会は」それぞれの地域の声を聴く会であると思うが、人口31,000人のより良い安全生活の推進のためには、19人がローテーションを組んで話を聞きめ細やかな取り組みをしてはどうか。</p> | <p>地域担当の議員を決めることは難しい。議員は庄原市全体の議員である。</p> <p>広い庄原市において、市民の声を聴く新しいバージョンの必要性を否定するものではないが、その地域に議員が、いる、いない、ではなく全体で取り上げる仕組みを考えるべきと思う。</p> |
| <p>同時に議会改革も考えるべきである。議員と市民の意識が離れることのない様にするためにも、市民の声をこまめに聞く仕組みづくりを考えてはどうか。</p> | |
| <p>峰田小学校は、板橋小学校へ統廃合となる。本村と峰田の子ども達は長距離の通学となる。</p> <p>このような統廃合に関しても、少なくなった地域は手をあげにくくなったり、意見が通りにくくなったりする状況になるのではないか。</p> | |
| <p>それを、議員のいない地域にも出かけて欲しい。</p> <p>山内は、市議会議員が多くいるが、どこもそうはいかない。</p> <p>報酬は成果や対価によるものである。</p> <p>一人の庄原市の代表としての心の部分を言っている。今後の方法論は伝えて欲しい。</p> | <p>毎月、地元の自治振興区の会には出席し議会報告会をしている。</p> <p>公務として出ていくには、議員のいない地域だけに行くということにはならない様々な制約があり難しい。議員派遣については難しい。</p> <p>現時点においても、議員の活動は自身の出身地に限定する活動ではなく、庄原市全体の幅広い視野に立っての議員活動をする責務があり、市民の方からの要望や提案に対しては真摯に対応していることもご理解いただきたい。</p> |

テーマ2：空き家対策について

| 参加者意見 | 議員意見 |
|--|--|
| <p>市政懇において、市内では移住者が増加した地域があるとの報告があった。</p> <p>ただ、自身の住む地域では、46軒の内10軒は跡を継ぐ家族はいない。</p> <p>行政と市議会と自治振興区が、今後どのような関係性を築けばいいのだろうか。</p> <p>交通便の良いところも同じ様な状況にある。</p> | <p>山内地域は、小学校の統廃合計画が判明した段階で、「てごおし隊」等の住民の動きが始まった。行政の「空き家バンク」制度も利用し、空き家の掃除・草刈りをはじめ、移住者にとって住みやすい環境づくりに取り組んでいる。</p> |
| <p>山内は国道がど真ん中を通り、広さ等環境がいい。敷信地域は便利なところは大型店舗が来ている。</p> | |
| <p>敷信地域においてはその取り組みは無い。自治振興区の中では、若者と高齢者との人口バランスの良い地域であると講演会等で説明があるが、実際には地域活動に若い人の参加は少ない。</p> | <p>山内自治振興区には地域マネージャーが2名いる。地域の活性化には人材が不可欠であり、細やかな住民に向けた発信も重要と考える。</p> |

| | |
|--|--|
| <p>板橋地域も空き家が増えている。</p> | <p>庄原市の空き家対策についての原則は、個人の資産は個人が管理することであり、隣接の家屋に被害が及び危険性のある場合においても、家屋の所有者の同意が必要となる。(東城まちなか・西城まちなか・山内地域の具体例の説明)</p> |
| <p>空き家の増加と相まって、その周辺の草刈りに苦労がある。又、子どもの通学路の草刈りは優先的に取り組んで欲しい。市道の草刈りの単価が安すぎるのではないかと。単価が上がったとしても、刈り手がいなくなることを危惧している。</p> | |

NO. 4 庄原地域東地区

テーマ：自治振興区活動の方向性について地域づくりにおいて今、振興区に求められること

| 参加者意見 | 議員意見 |
|---|---|
| <p>22 振興区は人数もさまざま、活動の差が出ている。市として振興区をどの方向に導こうとしているのか。</p> | <p>自治振興区活動が横並びではないことは承知している。山内のような活動をしているところもあれば、役員のなり手もない振興区もある。現在、企画建設常任委員会で振興区のあり方について調査している。</p> <p>西城は八銚と西城の二つの振興区があるが人数が少なくなっている。少ない人数で何とかしなければならないと頑張っている。地域マネージャーの活動を充実させていくことが良いのではないかと。</p> <p>目標をもって活動することが大切だと考える。新しい方向性を出していくときに住民でしっかりと議論していくことが大切だ。</p> <p>東城は小規模な自治振興区から大きな振興区までである。それぞれ特徴的な事をやりながら地域を盛り上げようとしている。振興区が市から受けている仕事が増えるケースがあるので今後の課題と感ずる。</p> <p>山内では自治振興区を中心に、てごおし隊や農村 RMO の取り組みを行っている。自治会長会議を毎月 20 日に行っており、議会の情報と地域の情報を皆で共有している。</p> |
| <p>生涯学習などさまざまな活動を自治会で行っているが、地域マネージャーもおらず、継続していくことが困難になってきている。</p> | <p>自治会の役員のなり手不足は大きな課題だと感じている。どのような問題があるのか聞いていきたい。</p> |
| <p>市議会議員は自分の地元以外の振興区の事も把握しておかなければならないのではないかと。</p> | <p>企画建設常任委員会では、自分の地元以外の振興区も回るように言っている。</p> <p>すべての振興区の状況を一人の議員が全て把握するのは難しいと感ずる。</p> |
| <p>振興区によっては合併した方が良いのではないかと感ずる振興区もある。</p> | <p>今の段階で合併は難しいと感ずる。しかし合併しても良い仕組みは作っていく必要があると思う。</p> <p>自治会と振興区の役割を明確にさせておく必要がある。</p> |

| | |
|---|---|
| 山内は活発に活動されているが今は人がいるから成り立っていると感じる、今後成り立たなくなる可能性もある。 | 山内でも自治振興活動に関わる人の高齢化、なり手不足は他の振興区と同じ状況にある。農村 RMO の活動の中で若者世代の意見を取り入れようという事になっている。今後は若い方にも協力を仰ぎながら進めていくことになる。 |
| 市の職員が減るから振興区に仕事が回ってくるのは間違っていると思うが、補助金を出しているのだからある程度のところまで指導はやってもらべきだと思う。 | 市の職員が減るから振興区の仕事が増えるのは間違っている。振興区に一人でも市の職員を配置することも考えていく必要があると感じる。 |
| 人口が減っている現状の中でスマートシティの考え方を取り入れていく必要があるのではないか。スマートシティの考え方で言えば自治振興区の役割は大きいと思う。 | 庄原市にもコンパクトシティ構想はある。庄原市街地、西城、東城に人を集約していく可能性はあるが、決して周辺部はどうでもよいという事ではない。 |
| | 構想はあるがしばらくはスマートシティを進めることはないと思う。やるならば、国や県が積極的に引っ張っていかなければならない。食料自給率が低い日本において農地などの観点から農村の果たす役割はとても重要になってくると感じる。 |

NO. 5 庄原地域北地区

テーマ：10年先の庄原市を見据えて

| 参加者意見 | 議員意見 |
|--|---|
| 合併当初は人口 44,000 人だったが、現在は 31,000 人に減少している。原因は出生数の少なさ(年間 150 人)と死亡数(年間 600 人)。庄原市はどこに重点を置き、どのような具体策を講じるのか。 | 人口減少への対策は、市が長期総合計画を立てている。議会もこれに関与し、目標を現実的にするよう努めているが、政策の実態としては「もぐらたたき」のようにになっている状況である。地域で完結する経済環境を作ることが重要で、将来的には抜本的な施策が必要と考える。 |
| 18,000 人でもやっているとされているが、どのような街を目指していくのか明確にしてほしい。 | 議会としても人口減少対策に責任を感じている。当時、社人研の推計よりも現実が下回っていることを反省しつつ、市と議会がさらに連携して抜本的な対応を模索していく。 国の方針では人口 8,000 万人を下限に計画しており、庄原市としても今後のグランドデザインを明確にする必要がある。県立大学の活用や、森林環境譲与税の活用などを検討していく。 |

NO. 6 西城地域西城地区

テーマ：子育て支援の施策の充実

| 参加者意見 | 議員意見 |
|--|---|
| 旧保育所の跡地利用については、市政懇談会において、屋外で子どもを遊ばせる場所としての利用について意見を出した。現在計画中である上野総合運動公園の場所以外に、各地に公園をつくるとの答弁があった。 | 保育所の跡地の公園化には当然財源が必要である。上野総合運動公園のように都市公園という中の遊び場は、国からの補助が出る。但し、枠があり、現在はその財源の余裕は無い状況であると担当課から聞いている。 |

| | |
|--|---|
| <p>旧保育所について、年度をまたいでの整備計画はどうか。</p> | <p>建物解体には、数千万円の経費が必要となるのではないかと考える。現在の保育所の場所になったのは、災害への備えの為であり、数か所の候補地から西城の住民の方々が選ばれ、土地をかさ上げし、住民の目の届く場所として現在の場所に建設された経緯がある。その点を踏まえうえでのお考えが必要ではないか。建物と敷地は市の所有、駐車場は借地で用途変更をしなければ、今の状態である限り一般は利用できないが、園庭だけであれば、用途変更はいらない可能性もある。</p> |
| <p>未就学児のいる家庭の子育てを考える時、子どもが下校した後に自由に遊ぶ場所が必要。また、高齢者のお知恵や料理、囲碁など、子ども達に教えていただけるような、老若男女、誰もが安心して集える場所を望む。</p> | <p>「要望書」を出されてはどうか。ただ、行政が困るのは地元の意見がまとまっていないことである。永末小学校の児童クラブの件では、PTAと共に地域のまとまった要望として提出された。地域の総意であることが重要である。</p> |
| <p>まずは、みんなが集える公園づくりを目指したい。建物は解体し、グラウンドゴルフが出来る場所を確保してほしい。</p> | |
| | <p>西城の全体を考えた時、「水夢」「保育所」「ウィル」そこに公園が整備され、一つのエリアの中に年齢をこえて集える場所にしてはどうか。</p> |
| <p>これ以上、小学校を廃校にしないで欲しい。職員も減り続ける現状がある。</p> | <p>学校の再配置は、地域、保護者との合意形成が無ければできない。山内地域では、再配置計画が公にあった時点で、地域の小学校を守る動きができ、空き家対策への取り組みも始まった。</p> |

NO. 7 東城地域小奴可地区

テーマ1：議員の描く自治振興区像

| 参加者意見 | 議員意見 |
|---|---|
| <p>それぞれの議員が考える自治振興区の在り方や、それぞれの地域の自治振興区でどのような活動や関わりをもたれているか。</p> | <p>西城自治振興区では、防災マップに従って避難訓練を行うなど、様々な活動をしている。自治会の役員のなり手不足が深刻だ。地域の活動も若者や女性の参加が少ないというのが課題と感じる。八銚は人口がかなり減ってきたが、自分達の地域は自分達で守るという思いで自分事として考え、活動している。</p> <p>振興区の在るべき姿としては、安心安全な地域をつくることだと思う。そのためには医療を充実させること、災害の時にいかに協力できるか、人と人のつながりが重要であると思う。</p> <p>帝釈では、地域包括ケアに力を入れて、安心して暮らせる地域にするよう動いている。人口は400人ほどだが、住人が元気を出さないと地域は元気にならない。市からの事業を精査して、職員と一緒に振興区の在り方について議論する必要がある。</p> <p>山内では自治振興区が中心となり、農村RMOに取り組んでいる。自治会長や地域マネージャー、女性会などが構成員になり協議会を設置</p> |

| | |
|--|---|
| | <p>し、今後、地域が持続可能な町にするための問題点や課題を洗い出し、議論を始めている。</p> <p>現在、企画建設常任委員会で自治定住課と振興区の在り方について、議論している。ほとんどの振興区で後継者不足、若者の参画がないなど共通した問題も起きている。振興区は大小さまざま、活動も地域によって一つではない。問題や課題もさまざまである。合併の話も出てくると思うが、市が強制的にやるものでもない。合併するという話になれば、そうできるようにシステムは整えていく必要があると感じる。</p> |
| 市から交付金が出て、自治振興区は運営されているが、地域としては自由に使えるお金なので楽である。補助金に関わる課には、生涯学習課と自治定住課があるが、横の連携はできているのか。横のつながりをもっとあれば良いと思う。 | 生涯学習課の生涯学習についての補助金は、実際に生涯学習事業を実施したのに対して出すもので、自治定住課は、やってもやらなくても出すものである。生涯学習課と自治定住課との横のつながりは、現在のところ把握していない。 |
| 自治振興区長の交流や研修はあるようだが、事務局長、事務員の研修はない。自治振興区によって振興区活動に差があると感じる。 | <p>職員の交流、研修については考えていく必要がある。以前の公民館活動の時は、市の職員が常駐していた。現在は難しい状況であるが、市と振興区のつながりを強くしていくことが必要と考える。</p> <p>現在、企画建設常任委員会で自治振興区の在り方について調査している。自治振興区ができて20年が経過した。20年の総括、今後の在り方や展開などをまとめて報告書にする予定となっている。</p> |
| 地域に空き家や耕作放棄地が増えてきた。空き家の所有者に戻ってきてもらえないか直接話をすることも方策の一つであると感じる。退職後、自分の家に帰り、年金をもらいながら、農作業をして充実した生活することは可能だ。 | 市では、現在庄原ファンクラブを作っており、庄原出身者をはじめとした方々に情報発信に力を入れている。 |
| 小さな行政区割りは取っ払って、整理していかなければ地域は成り立たなくなっている。 | 小奴可では、自治会の組織変更ができるようにしようという話も出ている。班などについては、市が指定するものでは難しいので、自分達の中で一緒になろうという事があれば、それが実現できるように仕組みをつくれるようにしていきたい。 |

テーマ2：地域の環境（道路、スポーツ広場）

| 参加者意見 | 議員意見 |
|---|--|
| 国、県、市は補助金体質なのが、問題だと感じる。補助金は一時的なものである。 | 補助金体質な部分は確かにある。スタートアップについての補助金は必要であると思うが、補助金が無ければ運営が成り立たないような補助金は考え直さなければならないと感じる。 |
| 小奴可の道路の状況について見て欲しい。防災マップをもらっているが、いざ災害が発生しても避難場所まで遠いし、避難所までの道も危険な場所がある。砂防ダムが一杯になっても何もなし。主要道路が駄目になった場合の迂回路は軽自動車一台通れるくらいの狭い道だ。せめて普通車が通れるくらいの道にしてほしい。 | 避難したくても避難が難しい場所もあるのは事実。避難路など道の整備は必要だ。小奴可は建設会社が2社あり、30年災の際にも迅速に対応してくれた。そのような事業所があるのは地域にとってありがたいが、避難所やそれまでの道が危ないという事であれば市へ要望してほしい。 |

NO. 8 東城地域八幡地区

テーマ：地域交通について

| 参加者意見 | 議員意見 |
|--|---|
| <p>同テーマでの議論は今年で3回目。JR八幡駅はあるが、地元はあまり使っていない印象。自家用車、バス、タクシーが使われている。もう10年すれば公共交通にお世話になる人が多いと思うので、地域でも何か取り組めないかと思っているが、地域にフィットするシステムがなかなかない。</p> | |
| <p>八幡の市民タクシーは、全域ではなく谷沿いの地域のみ運行されている。バスが走っている所も走れたら使い勝手が良いと思う。谷が深い地域も多い。学生利用、通院など様々な視点で広域運行にすれば、利用者も事業者も助かると思う。</p> | <p>路線バスが走っている所は、区域やダイヤなどの条件で、デマンド交通を走らせるのが難しい。地域交通事業者のタクシーとのすみ分けもある。地域で色々とされているが、法律もあってどこも厳しい。</p> |
| <p>例えば、通学バスは、小学校は独自に走らせ、中学校は路線バスにする。同じような時間帯なので一緒に乗れたら良いと思う。</p> | <p>地域によっては一緒に乗っている。出来ないことではない。ただ、行事や下校時間などで難しいという話も聞く。朝だけでも一緒に乗れたら良いと思う。</p> |
| <p>路線バスがあっても、細かなニーズに合わせてMaaSを走らせてはどうか。ニーズに合っていないのに維持するのももったいない。もっと細かいニーズに合わせて、パズルのようにピースをはめていけないといけないのでは。</p> | <p>MaaSは国費で実証実験を重ねているが、使い勝手が悪いという声もある。もっと小さい地域交通が必要だと思っている。自治振興区にタクシーを配置してはどうかと思うが、運転手確保の問題がある。交通事業者の運転手確保支援で2種免許取得費用の補助をしてはどうか。八幡地域と路線バス、お通りバスも繋がったら良いと思う。</p> |
| <p>自治振興区に人と車を配置してもらいたい。事業者の運転手がコロナで離職し、募集をかけても来ない状況で、事業者もしんどい。ドライバーの給料分くらいの補助か、市の雇いでドライバーを雇ってもらえないだろうか。給料を上げれば雇用も生める。芸備線は観光だけではやっていけない。</p> | <p>民間事業者との調整が必要になる。市が進めると民業圧迫と非難される事もある。いきなり全域で始めるのではなく、地域で民間事業者との調整ができる新しい取り組みを進める事が大切だと思う。</p> |
| <p>まずは市民の生活、そして事業者の雇用。それぞれのバス路線で、どの時間にどのくらい乗っているか、データで研究することが必要。路線バスのある地域ではMaaSの取り組みは出来ないこととなっているが、昼間の利用者が少ない時間帯だけでもデマンド交通を取り入れる事は出来ないか。</p> | |
| <p>デイホーム事業の運転手をしている。今のところ買い物の要望はないが、地域の方が地域内でお出かけできれば良いと思っている。少人数を簡単に乗せてあげられる仕組みはないか。</p> | <p>デイホームの車両では難しいと思うが、ライドシェアや他市町の自治会、例えば、三次市の青河地区、広島市安佐南区、世羅の黒川自治会などでは、登録をせずに無償運送で、ボランティアで乗せている事例はある。神石高原町ではタクシーが600円。タクシーが定額で乗り放題の取り組みもある。地域に合った持続可能な仕組みづくりが重要だと思う。</p> |

| | |
|--|--|
| <p>定年延長もあり、ボランティアできるのは70代。危ないし事故も怖い。免許返納した人がどこにも行けない。親しい人に乗せてもらっていても、いつも頼むわけにいかず、足が遠のき閉じこもってしまう。事業者とタイアップして運行できるのがベストだと思う。</p> | |
|--|--|

NO. 9 東城地域田森地区

テーマ1：行政と住民とが一体となった地域環境整備のあり方について

| 参加者意見 | 議員意見 |
|--|---|
| <p>地域の担い手不足や物価高（ガソリン・混合油）の状況の中で、現在の市道の草刈りに対する1㎡/12円は安すぎるのではないかと。作業をする元気も出ない。値上げを是非考えて欲しい。</p> | <p>担当課と、この班員との意見交換の場においては、「他からもご意見を伺っている。見直さなければならない時期に来ていると思う。」との答弁であった。</p> |
| <p>生活上の支障があるため、道路沿いの支障木を伐採する際、高所からの落下により腰椎の骨折等、危険が伴う作業をボランティアで実施している状況がある。</p> | <p>危険な作業をさせていただいている現状が分かった。保険への加入はされているのか。</p> |
| <p>事故の保険については、今後きちっとする方向で考えたい（自治振興区事務局）</p> | |
| | <p>作業の出来る人材が確実に減ってきている。草刈りの作業自体が続けられるのかどうか危惧している。</p> |
| <p>地域によって草刈り作業が出来なくなった場合には、市が実施するのか。</p> | <p>当然実施する。グレーチングが跳ね上がって車にキズがついた場合でも、市道の場合市の責任となる。</p> |
| <p>草刈りの作業とともに、側溝の枯れ葉・泥除去や、交通支障木の伐採も同時に作業を実施している。草刈りの単価値上げとともに、それぞれ200円/㎡との強い要望を出しておく。</p> | |
| <p>年1回ではなく、2回は出して欲しい。どの地域でも草刈りは年に1回ではなく2回は実施している。</p> | |
| <p>県道の、歩道部分との境（縁石まわり）に泥が堆積し、そこから草が生えてくる。土の撤去を県土木に要望して欲しい。県道については、市の担当課に言えばいいのか。議員も動いて欲しい。私道の損傷についての対応はどこか。</p> | <p>直接に議員への相談があれば、直ぐに管轄への連絡等、対応が可能であるが、状況によっては、全て即解決につながらない場合もある。私道については4割が市の負担となっている。</p> |
| | <p>今、出されたご意見を、まとめて提出されてはどうか。山内自治振興区ではそのようにしている。それぞれの要望を個人で出されるより有効であると思う。</p> |
| | <p>危険倒木等は、現状を見させてはどうか。国・県道についてはスマホからの写真送信も可能となるアプリがある。</p> |

テーマ2：粟田小学校統合後における学校跡、跡地利用を通じての地域活性の方向について

| 参加者意見 | 議員意見 |
|--|---|
| 現在の自治振興センターは、土砂災害警戒区域でありレッドゾーンとなっている。もう一つの避難場所としてはどうか等、防災拠点として考えている。ヘリポートとしての場所もある。 | 田森自治振興区としての意見はまとまっているのか。 |
| 自治振興区としての検討はこれからである。 小学校の閉校式は令和7年3月15日が決まっている。地域と、ここに住んでいる皆さんの元気づくりの拠点として使えないか考えてみたい。 | 再配置後の旧小学校の利活用については、地元の皆さんの意向を最優先するとの、教育委員会の考えである。 |
| 学校林の今後のことについて知りたい。 | |
| (自治振興区事務局) 昭和35年に学校林の組織の立ち上げがあった。組織が以前のままであり、組織の再構築をしたいと思っている。育林会の目的について庄原市と協議に入っていきたい。 | 学校がなくなっても、子ども達の為に使うという、当初の目的は当然守られなくてはならない。所有者との契約が80年であり、未だ12年残っているが、山の所有者との話し合いの中で早目に処分されてはどうか。基金としての考え方もあるのでは。 |
| 旧川北小学校の令和7年4月からの活用状況を知りたい。 | 来年の4月に開校されると聞いている。公立の学校とは全く違う教育論であり、主には不登校の子どもさんの入学があるのでは。授業料はかなり高額である。 |

NO.10 東城地域東城地区

テーマ：東城地域における災害対策

| 参加者意見 | 議員意見 |
|--|---|
| 東城は昭和47年の豪雨以降、度々災害に見舞われている。川西には、多くの人が入ってきたが、土砂災害指定区域に指定され、いち早く自主防災組織を立ち上げた。粘り強い活動の結果、防災対策が実現すると思う。堤を防災ダムに切り替えるとか、河川の氾濫を改善してもらうように要望書を出している。それぞれの地域でも粘り強く要望をだしてほしい。 | 30年災、令和2年災の復旧の目途がついた。大きな災害があると復旧まで何年もかかる。来年度に向けて、新しい施策として、防災についても取り組んでいくと思う。 |
| ハザードマップについて作成するとき、マップの中には家もたくさんある。マップ作成もよく考えて作ってほしい。マップ内には人は住みたがらない。避難場所も川を渡っていかなければならないので、危険だ。渇水期に流木や岩などを撤去したり、見回りをしてほしい。 | 川の点検や整備は県がやっている。浚渫 <small>しゅんせつ</small> 工事もおこなっていて水がスムーズに流れるようにしていくと思う。避難場所や橋の強度については検討していかなければならないと思う。 |
| 人口減少が進んでいるので、行政に頼るだけでなく、民間と組んでやることも考えていかなければならない。街にカメラを設置することも必要ではないか。カメラと連動する方法や、それをどのように住民に伝えるのかなど、流れを整備することが必要ではないか。 | 庄原ではラインで通報できるシステムがある。災害時に活用できるようにすればよいと思う。実際、監視カメラを増やしてほしいという意見もある。市はドローンの会社とも提携している。ドローンの活用も進んでくると思う。 |

| | |
|---|--|
| 車がやっと一台通れるくらいの橋があるが、老朽化している。市に言っても市の管轄ではないと言われた。いったいどこに言えばよいのか。 | 市が管理していないとなると民間かもしれない。いったん持ち帰る。 |
| 避難場所が高い場所にあるが、水は来ないと思うが、行くのが大変だ。土地を買収して橋を渡らなくても良い避難経路を整備してほしい。 | |
| 西日本豪雨の時に、久代で 100m くらい山が崩れた。その時に緊急対策はしてもらったが、4 年以内には何とかすると言われたが、何も無い。県に言っても予算がないと言われた。 | 要望を出しているのなら県が対応すると思う。要望は把握しておく。 |
| 郵便配達をしているが、道に土砂が崩れて通れず、大きく遠回りをするしなければならない。石や土だけでも取ってもらいたいが、どこに言えばよいのか。 | その場所が、市道であれば市が対応するはずだが、ラインで通報する方法が良いと思う。対応が早い。 |
| 市道でないに対応してくれないのか。農道であれば対応できないか。 | 農道の場合は、管理している人の手出しが必要となる。 |
| 議員は市のホームページを見てください、ラインで通報してください、という高齢者は対応できない人が多い。誰かヘルプしてくれる人が必要ではないか。 | ラインだけでなく、紙ベースのものも行政文書で出している。市ではデジタル化を推進しているが、対応できない人を考えていないという事ではない。 |

NO. 11 東城地域帝釈地区

テーマ 1：自治振興区のあり方について

| 参加者意見 | 議員意見 |
|--|---|
| 自治振興区制度がスタートして 19 年になり、様々な課題が出ている。仕事量が増え、更には統廃合問題と同時に、職員数や経費の削減も議論されている。大きければよいというものでもない。職員への待遇が悪い。市としてしっかりした考えを持って欲しい。 | 人口減少問題や交付金、役員不足、事務職員待遇、行政から降りてくる仕事量の増加など自治振興区が活動する上での問題がある。 |
| 地域の人口が 500 人を下回れば、合併しろという指示はあってはならない。自治振興区の規模は人口だけではない。職員の待遇改善を考え、人員削減の話は出さないで欲しい。 | 人口減少に伴って、活動が困難になった自治振興区は、合併をといった声もある。それぞれに事情が違い、簡単に結論がでる問題ではない。7 月 5 日に開催された令和 6 年度庄原市自治振興区連合会の総会においての組織検討方針として、人口が 500 人以下でかつ活動が困難となっている自治振興区、又は、組織再編の必要性を認識している自治振興区は、組織の見直しを協議すると示されている。 |
| 帝釈自治振興区は活発にやっているが職員が大変だと思う。後継者を見つけることが難しい状況ではある。 | |
| 郵便局は包括協定を結んでいるので、その活用をもっとすすめてはどうか。例えば周南市も実施している山形県のポストチョコ便など、買い物や薬を運んだりすることも可能ではないか。庄原市の自治振興区数と同じ 22 か所の郵便局がある。機動力があり郵便車もある。 | 素晴らしいご提案をいただいた。検討したい。 |

テーマ2：地域交通について

| 参加者意見 | 議員意見 |
|--|--|
| | <p>昨年出された課題に、バスの発着時間が、利用する子ども達の生活にあっていないとのご意見があり、停留所の増設、発着時間の変更により改善された。庄原市全域においても、地域交通は住民の皆さんの生活に直結した重要案件であり、議会では特別委員会を立ち上げ、議論を進めている。</p> |
| <p>単なる交通手段ではなく、通院、買い物、更には免許証の返納者への対応等、安心、安全な生活を支える総合的課題として取り組んでほしい。マースの実証実験等を実施したが、確固たる対応や取り組みが見えてこない。新たな交通のあり方について示してほしい。</p> | |
| <p>子ども達にとっての利便性は以前より向上したが、特に中学生のクラブ活動のある土日の運行がなく、保護者による送迎困難な時のタクシー利用料金は、往復で7,000円と高額である。教育の平等の観点からも、タクシー券の発行などは考えられないか。</p> | <p>そのご提案は考えてみたい。</p> |
| <p>様々な課題を抱えている地域交通である。備北交通への予算についても考えてはどうか。</p> | <p>芸備線の利用やタクシーの夜間利用が出来なくなる不便さなど、地域によって必要とされている交通体系が違うことは認識している。地域交通特別委員会は、12月には中間報告が出せるよう取り組んでいる。</p> |
| <p>共助の思いで、隣家の高齢者を自家用車へ同乗をと思うが、事故のこと等を考えると難しい面がある。</p> | |
| <p>市民タクシーの実務を担当しているが、利用者が少ないと感じている。自己負担の軽減が必要では。また、ドアツードアの利用しやすい制度を望む。移動販売車の利用も少ないのではないか。利用者を増やす対策が必要ではないか。</p> | <p>通院、買い物等が安心して出来る暮らしやすいまちづくりを目指したい。</p> |

テーマ3：農地利用地域計画について

| 参加者意見 | 議員意見 |
|---|--|
| | <p>食糧安保、自給率の問題から、農地を将来的に明確にする計画である。今後10年間の管理、地域計画を農業委員会と行政が共に検討することとなっている。8月5日庄原農業委員会が開催予定であり、11月頃確定したものが示されることとなっている。</p> |
| <p>農地を貸したい人はいるが、受ける人がいない。国が言っているようないい話には庄原市の場合ならないのではないか。</p> | <p>農業委員会、JA、市によって地域計画を立てることとなっている。</p> |
| <p>段取りは決まっている。集落で話し合いをとなっているが、市としての話もでない。</p> | |

NO. 12 東城地域久代地区

テーマ：特産品振興と高齢化対策

| 参加者意見 | 議員意見 |
|---|--|
| 高野の農業者の後継者は順調に後継できているか。 | 続いているが、離農する人もいる。 |
| 肉用牛、特に比婆牛の振興について、大規模なもの小規模なものがあるが、家庭で行っている後継者についてはどのように考えているか。 | 魅力ある産業ですが、農家が儲からないと後継者も続かないと思います。これが高齢化対策にもつながると考えている。 |
| 定年前は農業に関心がなかったが、定年後はやってみようと思うようになりました。新規参入は難しいが、若い人が関心を持てる仕組みを作れませんか？ | 毎日世話をすることで愛情も湧き、より良い牛が育つと思う。若い人が関心を持てる仕組みを検討したい。 |
| 農業者の若い人が従業員を雇うには収入が必要である。最低賃金も上がっている中、補助金があれば助かる。 | |
| 高齢化が進む中で、田んぼを作ってもらうには若い人が必要だが、働く人が少ない状況である。農業も賃金をしっかり確保しないといけない。 | |
| 地域に住むようになってから、イノシシの被害が出ている。今は大きな農家しか残っておらず、地元は衰退している。 | |
| 地方は高齢者ばかりで、この構造を変えるにはどうすれば良いか。 | 農地は足かせになってしまっている。 |
| 自分の農業だけで手一杯である。檀家や氏子をやめるのは寂しいが、地域で育った人たちが高齢になり、若い者に責任が重くのしかかっている。 | |
| 農業を続けるための状況を作れるようにしてほしい。今年は米の所得は多いが、農薬や肥料が高く、コストが高い。広島農協は安い。 | |
| 飼料高騰に対する補助金が今年はない。農家は国からではなく市からもらったという感覚がある。戦争が終わらない限り物価は下がらない。 | |
| 目利きができる人に対して補助金をしっかり出してほしい。 | |
| 久代はサルの被害が大きく、農地の活用ができない。柵用のメッシュを買う補助金が必要だ。地域を守ることで他の地域も活性化する。 | |
| 昨年まで畜産をしていたが、高齢の親と独り身のため、牛を手放した。体調を崩した時の飼育サービスが必要。 | |
| 比婆牛を特産品としてやっていくつもりがあるか。地域に根差した方策を考えてほしい。 | |
| 庄原市が小規模で行うことを進めるための方策を考えてほしい。 | |

NO. 13 口和地域口和地区

テーマ：耕作放棄地対策と地域景観保全について

| 参加者意見 | 議員意見 |
|---|--|
| <p>農家が減り、人口が減る中で、農地をどのようにして保全していくか。耕作放棄地に加えて廃屋、空き家が増えている。景観にプラスになるものはない。将来子どもが帰りたい地域にしたい。</p> | <p>耕作放棄地をぎりぎりのところで守っているのが牧草耕作農家だと思う。水田活用直接支払いの水張り要件も何とかしたいが、国に良い回答はもらえない。世羅では、農業法人が連合を組んで、新規就農者のバックアップをされていると聞くので、取り組みを学び、庄原でも生かしたいと思っている。</p> <p>個で対応するのは無理だと思う。自給率を向上させるためにも農家支援を国がすべきだと思うが、しないなら県や市でもすべきだと思う。</p> <p>選別する時期にきていると思う。牧草を植えるのか、山地化するのか。割り切りが必要な時。地域や農林公社、行政で話し合いをすべきだと思う。</p> <p>どこの集落でも若者が減少している。地域計画で地図化している。今後は地域ごとに話し合いが始まるので、真剣に考え、話し合い、山に返すことも考える必要がある。農業をやっているが、水張り要件で補助は途絶えると思うし、資材高騰で、収支バランスが合っていない。オランダなどの国の農業支援のような施策も考えていかなないと農業をしていけないのではと思っている。</p> |
| <p>80歳を過ぎているが、農業をやっていけない。減反政策など国の政策どおりに市が動いているが、しがみついているのは高齢者だけ。とにかく国に訴えて欲しい。県北は農業。三次、安芸高田市の県北3市で議員そろって訴えるくらいしてほしい。農業についての一般質問が少ない。</p> | |
| <p>芸備線を守るために沿線自治体の議員が連携を取って活動しているが、口和など沿線でないまちには芸備線に関心はない。農業は全域で倒れそうなのに、そういった取り組みや議員活動が見えない。</p> | <p>一般質問にも取り組んでいきたい。要望書も企画建設の委員会で取り組んでいきたいと考えている。</p> |
| <p>水張り要件は実は非常に深刻な問題。水のポンプアップの機械も老朽化。転作するにも機械が必要となり、経費が必要。認定農業者でも給料が出ないほどの収益。何が儲かるのか、どうしたら食べていけるのか、農家がこれまで一生懸命頑張ってきたが、今後どうしたら良いかわからない。</p> | |
| <p>10軒あった集落が半分になり高齢化している。若者がひとりふたりしかいない。景観どころか水路さえ守れない。山地化も考えなくてはいけない時期にきていると思う。</p> | |

| | |
|--|---|
| <p>人と人の繋がりが希薄化している。祭りの参加者も減っている。地域でもしっかりと会話していかなければ。これまで農業をしてきた親世代に地域づくりのことも聞いて自分たちがやっていかなければならない。</p> | <p>住居に農地を付けて提供したらよいと思うが、相続権の問題が大きい。放棄地傾向なら更地にすることも考え、宅地、農地、住居で一連化していかないと移住施策はうまくいかないと思う。相続権の問題は国会議員でも訴えるくらいしてほしい。</p> |
| <p>農地は、農業委員会で県との絡みがあると思う。田を宅地にするのも結構な労力がある。申請時期も年2回と決まっており、時間がかかる。農地転用や農地法の絡みが大きく、ハードルが高いし、資金もかかるのは問題。</p> | |

NO.14 高野地域高野地区

テーマ：地域交通

| 参加者意見 | 議員意見 |
|---|--|
| <p>なんずかんずつながる会で昨年度から高野交通「おでかけごはん」の再編について取り組んでいる。将来長期的に事業継続をして頂くために、貴重な高野の資源「高野交通」を残したい。他地域の取組を伺いたい。</p> | <p>口和タクシーは町内 300 円で運行。運転手の高齢化、利用者の固定化、庄原や三次に出られないなどの課題がある。</p> <p>議会で特別委員会を設置した。庄原市内に夜間タクシーが廃止されたことについてタクシー事業者へ聞き取り調査をした。カスハラ問題や運転手確保が困難、経営的にも厳しいこと等がわかった。その他路線バスの利用率が低いことも課題。ひまわりバスは 100 円でまわっていて、日中で 10 人前後の利用がある。失くしたら作るのは大変なので、「公共交通に乗ろう」という認識が必要だと思う。</p> |
| <p>社協の福祉車両が利用できなくなった。社協職員でなければ運転してはいけないとのことだが、職員も高齢化し、確保できない。陸運局より、利用料も頂いてはいけないとのこと。高齢の方、透析患者の方、寄り添いたいのに、社協だけではやっていけない。介護を要する方の移手段が危機的状況。</p> | <p>特別委員会では、理屈や理想ではなく、「乗ってみる」「行ってみる」というスタンスで調査し、突き詰めていきたい。車の補助やサポートを行政も出来るはず。</p> <p>スクールバスに一般の方が混乗できない。そういうところから変えるべき。</p> |
| <p>地域交通課が出来たと聞いているが、どんな仕事をされているのか。庄原市には JR だけではない。何もしてもらえないから自分たちで頑張っているのに、貨客混載の案も置いとかれて、いつやらせてもらえるのか。今はまだある地域の資源、高野交通や道の駅を活かしたい。</p> | <p>青河は総務省の補助金で始めたのではなかったかと記憶している。陸運局だけでなく総務省や他の省庁にも相談されてはどうか。</p> <p>地域交通課では、地域公共交通計画の地域別の計画を策定し、地域の声を聞くと言っている。実際は支所の職員が対応しているかもしれないが、実際に本庁の職員で聞いて回って欲しい。課の職員数が少ないのも影響しているかもしれない。</p> |

NO. 15 比和地域比和地区

テーマ：持続可能な地域づくりに向けて人口減少や地域の担い手不足をどうやって解決すればよいか

| 参加者意見 | 議員意見 |
|---|---|
| <p>比和では子どもたちの居場所と活躍の場づくりを6年前から取り組んでいる。未来塾や英語教室、生涯学習事業、スポーツ活動補助、郷土の学習など、地域を大事にする子どもを増やしたいと考えている。</p> | <p>素晴らしい活動をされている。他の自治振興センターも参考になると思う。しかし、子どもの数が少なくなっていることが問題だ。視察に行った丹波山村では、移住者が多く、移住者が地域を活気づけている。比和の取り組みを、全国の子育てに悩む方に情報を届けることができればよいと思う。</p> <p>高野町では地域おこし協力隊が地域の魅力を全国に広めるためにSNSを活用して情報発信をメインに活動されている。</p> <p>若い人は生活が厳しい。若い年代が働く場所が必要だ。農業で食べられるようになればUターンしてくる若者が増えると思う。</p> <p>大人自身が自分達の住む場所に誇りを持ち、子どもたちに地域の素晴らしさを伝えることが大切だ。大人が地域に誇りをもって生活すると、子どもはそれを見て地域に誇りを持つことに繋がると思う。</p> <p>東京からUターンしてくると国から補助金がでる。庄原市は18歳まで医療費無料などの子育て支援策も充実していると思うので、知ってもらいたい。</p> |
| <p>丹波山村では移住者はどのような仕事をしていたか。</p> | <p>地域マネージャーが移住の受け入れに動いている。仕事は、パン屋、舞茸生産、ウイスキー醸造、ドローン関係など、移住者が新しい産業を生み出している。</p> |
| <p>比和の一番の問題は中学校の事。学校が無くなると、比和町にはUターンしてこない。移住先として選ばれるには、最低限学校が必要。</p> | <p>中学校の統廃合は白紙となったが、親が合併してほしいと言えば、合併の方向になるかもしれない。小学校の合併も白紙になったわけではない。小学校合併に関しては、小奴可では強固に反対している。地域の人が協力して、学校の環境整備や、地域の歴史教育などの授業に協力をしている。</p> <p>リモート通信などの技術革新が進み、比和中学校のような小規模校でもリモートで他校と交流できる時代になった。条件整備も必要だ。</p> |
| <p>教育委員会が親や子どもに不安を与えないような対策を行わなければならない。</p> | <p>持ち帰り教育委員会に伝える。</p> |
| <p>Uターン者の就労支援、新規就農支援についてどのように考えるか。</p> | <p>農業に関しては新規就農支援は庄原市もやっている。現在の支援策は大型農家や専業農家への支援策になっているので、小規模の農業従事者への支援もできるように、現在、担当課と話をしているところだ。</p> |

| | |
|--|--|
| | 比和は自然が豊富で、森林やたたら歴史、棚田、長者屋などの魅力的な資源も豊富だ。資源を活かしたことが出来ればよいと感じる。 |
| | 比和は若い人がそれぞれ頑張っているの、個人と個人を結んで、繋げていく事も必要だと思う。 |
| | 視察した新潟県十日町市越後妻有地域では、女子サッカーと農業を組み合わせ、若い女性の移住につなげ、棚田や景観の維持、特産品開発、農業従事者の増加につなげていた。そのことで、地域の高齢者が笑顔になり、地域に活気が出ていた。農業と他の職種の組み合わせで、様々な可能性が生まれるかもしれない。 |
| | 庄原市では、1人で林業をする人も出てくるなど、1人で仕事をする人が増えてきた。国も、今後スタートアップに力を入れることになると思う。活用できれば良いと思う。 |
| 息子がリターンして、新規就農することになった。今までの支援策は変わるというが、全くの新規就農でないと支援は難しいのか。 | 今度の方針がまだわからないので、今からの話になると思う。 |
| 比和では、引きこもりなどの支援として、就労のお手伝いをして、商品を販売するなどすると、税金などの関係で活動が難しくなる。そのあたりの支援策はないか。 | 8050問題は非常に大きな問題だと思う。社会の仕組みの中で、引きこもりとなる人は多い。社会福祉協議会を中心にサポートする体制はある。 |
| | 自治振興区が中心となって行動されているのはすごいと思う。国も市も引きこもりについての支援は抜けているのかもしれない。引きこもりの方が働けるようにしていかなければならない。今後の課題として持ち帰り、勉強させてほしい。 |
| | 帝釈では、地域の皆で支えあって見守るように、月に一度、関係者が集まって会議をしている。 |
| 引きこもりの就労支援については、市から委託を受けた場所の清掃等を行っている。地域マネージャーが引きこもりの方を連れ出しているが、このような小さな活動もサポートしてもらえればと思う。 | 新たな問題提起がされたと思うので、課題として持ち帰る。 |

NO.16 総領地域総領地区

テーマ1：持続可能な地域社会づくりについて（空き家になりつつある市営住宅について）

| 参加者意見 | 議員意見 |
|--|--|
| 総領に市営住宅が81戸ある。入居20年を機に家賃が上がるため、子育て世代が三次に出してしまう。地元で払い下げをして家賃を低くし、入居者を募るなどの工夫が必要だと思うが、他地域も含め、住宅について議員の考えを伺いたい。 | 一般質問もしたが、高野は住宅が少ない、道の駅たかのも三次から通勤しているスタッフが多い。町内に必要なのに、町外に空きがあるから建てないとのこと。庄原の住宅もボロボロ。神石高原町や邑南町などの良い取り組みもあるので、地域ごとに問題を整理する必要があると思う。 |

| | |
|---|---|
| <p>国の施策も関係しているのは理解しているが、庄原市内と総領が同じ仕組みなのは困る。国の制度で金額設定、払い下げ、安くする、考えて頂きたい。出来ないのなら一般社団に譲って欲しい。こちらで家賃設定、リフォームなどしていきたい。</p> | <p>庄原市公営住宅等長寿命化計画がある。市は現在新たに建てることは考えていないようだ。30年目的外使用をすると補助金返還出来るので、そういうことも考えていかないといけないと思っている。</p> |
| <p>知人が親子で住宅に住んでいた。こどもが結婚・出産を機に別の住宅に入りたかったのに、入居出来ず出てしまった方がいる。空きがあるのに何とかならないのか。</p> | <p>収入要件がある。住宅にも種類が色々あり、それぞれ要件が違う。要件の関係で入居出来なかったのだと思うが、勉強させて頂く。</p> |
| <p>市は縛りがあって出来ないと言う。議員に言っても、聞いて帰るだけで何も変わらないのか。縛りを取っ払うことは出来ないのか。</p> | <p>聞いて帰り、「何も変わらない」ではなく、委員会や一般質問などで意見を伝えていく思いでやっている。議員・議会に執行権はないが、働きかけは出来ると思っている。</p> |

テーマ2：公共交通システムの再編について

| 参加者意見 | 議員意見 |
|---|--|
| <p>総領地域振興計画にもある通り、新しい地域交通システムを構築している。免許返納を控えて議員はどう思っているか。</p> | <p>議会では特別委員会を設置し、調査しているところ。各旧町で事業者や高齢化率、仕組みが違う。それぞれの地域ごとに市民の声で交通システムをつくり、それらを繋ぐことが重要だと思う。タクシー券の在り方、神石高原町のワンコイン乗り放題や安芸太田町の月5000円乗り放題など、ひとつの方法だと思う。地域で考えて言えば市も協力出来ると思う。</p> <p>免許返納者への助成が庄原市は年間1万円で単年のみだが、世羅町は年間3万円。色々なやり方があり、様々な方々が意見をせせば変えていけると思う。</p> |
| <p>市内夜間タクシーが無くなった。救急車を呼ぶのも迷う時や救急の帰りなどどうしたらいいか。出る方法を働きかけてもらえないか。</p> | <p>特別委員会で調査している。カスハラなどの問題もあるようだ。西城が救急診療の帰りを地域が送迎している。取り組みを聞いてみようと思っている。緊急の時は遠慮なく救急車を呼んで欲しい。</p> |

7. 意見交換

(1) 井戸端スタイル

NO1. 庄原の人口問題を考える民間会議

| 参加者意見 | 議員意見 |
|--|---|
| <p>農かの跡継ぎとして、必死で田畑を守っているが、厳しい状況にあっても売却が困難。</p> | <p>様々なご意見を伺って、市・議会・議員に対してのご不満があまりのようですが、皆さんはご自身が投票をした方とつながりはありますか？議員と市民のつながりが薄いような気がする。</p> |
| <p>自分は西城町出身であり、自営業を営むために帰ってきた。他の市の方たちに胸を張って「庄原はいいよね」と言えない。</p> | |
| <p>全くない。地域に議員さんがおられないので、誰に言えばいいのかわからない。</p> | <p>市長よりも議員が使いやすい。いかに議員を使うかを考えて欲しい。</p> <p>市民の皆さんから相談を受けると、必ずお宅に伺うこととしている。その内容によって、調査研究も必要であったり、本会議での質</p> |

| | |
|------------------------------|---|
| | 間に繋げることもある。机上の空論では、進まないと思う。先ほど、庄原市はいいところがないと言われたが、自らメディアを使っての発信が大切ではないか。SNSの利用等、三次と比較すれば少ないと思う。 |
| 興味を持つ人が集える市民参加型のイベント等を実施したい。 | 行政が主催するイベントは盛り上がりには欠ける場合が多い。そのあたりの仕掛けが必要ではないか。 |
| 桜フェスティバルは個々の参加で盛り上がった。 | ただし、市の主催から外れると回覧が回らない。 |

NO3. 庄原の人口問題を考える民間会議

| 参加者意見 | 議員意見 |
|--|--|
| 支所機能、振興区機能、学校など今あるものを残せばいい。人口減少しているから統合していくのかもしれないが、残していく思いが市にあるのか。議員はバラバラではなく、具体的な提言をしてほしい。 | 常任委員会がひとつの政策提言集団だと思っている。教育民生では、永末地区の大きな問題を動かしてくれた。それぞれの委員会でやっていくことで、大きな岩を動かしていけると思う。 |
| 市民は頑張っている。市民と語る会で出た市民の意見をもっと一般質問や議会でも取り上げてもらいたい。 | 議員各々一般質問で随分取り上げていると思う。委員会でもやっている。議員も一緒に頑張っていることはご理解いただきたい。 |

(2) 自治振興区

NO. 7 東城地域小奴可地区

| 参加者意見 | 議員意見 |
|---|--|
| 庄原いちばんづくりは事業政策が多すぎてわかりにくい。政策を絞っていくことが必要ではないか。 | 庄原市には、長期総合計画といちばんづくり計画があり、重複しているようなものもあり、わかりにくい部分がある。事業を整理していく必要はあると感じる。 |
| 国保税が高すぎる。子どもが多い家庭や高齢者がいる家庭には負担が大きすぎる。 | 国保税は国の施策の影響が大きい。議員として動いていきたい。 |

NO. 8 東城地域八幡地区

| 参加者意見 | 議員意見 |
|---|-------------------------|
| 東京からやって来て、観光一筋50年。海外から人を呼ぶことを頑張っている。3年前から雄橋で毎週金土日に案内や撮影ボランティアをしている。1日100人くらい来られている。最近は県外ナンバーの自家用車が多い。もっと観光に来てほしい。ガイド養成講座を受講して資格取得し、後継者の養成もしている。雄橋を紹介する看板の英語訳の誤字をすぐに修正してほしい。 | 看板の修正については、すぐに担当課に確認する。 |
| 東城町内の小学校3校に、高校生の発表を英語にしたものを持ち込んだが、門前払いだった。英語は世界共通語なので、教育委員会も学校の先生方も力を入れてほしい。 | |

| | |
|--|---|
| <p>東城小学校の児童に雄橋に行った事があるかと聞いたところ、誰も行った事が無いとの事だった。地元の観光資源についての学びも推進して欲しい。</p> | <p>コロナ禍の教員の移動で継承ができていないが、東城検定という取り組みもある。小学校に提案する。</p> |
| <p>7月に地域でワークショップをしたら、鳥獣被害が一番大きな問題だとわかった。イノシシ、シカをなんとかしてほしい。免許を持っている猟師にもっと捕獲してもらえるように補助の出し方を考えて、もっと手厚くしてもらえないだろうか。</p> | <p>一般質問でも会派要望でも挙げた。猟友会との関係が難しいとも聞くが、たくさん捕獲する方もいる。食肉加工施設もシカにも対応できるようにはなるが、捕獲数が増えるよう、5,000円から1万円くらいに補助額を上げてほしいと思っている。</p> |

NO. 11 東城地域帝釈地区

| 参加者意見 | 議員意見 |
|--|---|
| <p>広島県は全国一他県への人口流出が多い県である。高齢者をはじめ、誰もが安心、安全に暮らせる町を作っていくしかない。少子化社会となった原因にジェンダーギャップがあると NHK クローズアップ現代で放映していた。どのように理解すればよいか。</p> | <p>第2次世界大戦後、女性の貧困と女性への暴力が世界的に問題となり、女性差別撤廃条約もできたが、日本においては未だに男女の賃金格差、管理職数格差など改善されていない部分が多くある。女性の平均寿命は延び、学歴も高いのに、経済・政治分野での数値が低いため、世界の中で低い位置にあり続けている。</p> |
| <p>移動販売車の話が出たが、予約販売のような方法も考えてみてはどうか。</p> | <p>移動販売車は見守りの役目もある。事業の持続のために、1人当たりの購買額なども含め、課題としたい。</p> |

NO. 14 高野地域高野地区

| 参加者意見 | 議員意見 |
|--|--|
| <p>こどもが産まれる数が減っていることを単調に考えていてよいのか。学校統合の計画があったが、メリットデメリットがあり、保護者も結論が出せないと思う。高野には高校が無くなり、高校生が町内にいなくなった。こどもが地域からいなくなるのが一番の過疎だと思う。地域に学校は絶対必要。校長兼務などで小中一貫校が出来るのか。</p> | <p>まずは今住んでいる人が、この地域が一番好きだと言って歩いてほしい。こどもにも選択肢はあるが、ここは住みやすい、素晴らしいところだと聞いて育つと、帰って来てくれると思っている。都会に出てもいい。いつか帰って来てもらえるように家庭や地域で話して育てて欲しい。</p> |

8. その他（自由意見）

(1) 井戸端スタイル

NO. 2 三河内寿老人クラブ

| 参加者意見 | 議員意見 |
|---|--|
| <p>庄原市の課題を解決するためには市の職員が中心的な役割を果たすと思うが、その職員が暗い、市役所の雰囲気も暗い。多くの早期退職者が出ており人員不足と聞く。職員が変わらなければ市も変わらない。職員の育成に力を入れるべきではないか。</p> | <p>今年の春に多くの退職者が出た。必要人員よりもかなり多くの人員が不足する事態となった。現在総務常任委員会で様々な視点で調査しているところだが、いろいろな原因が複雑に絡み合っている現状にある。職員が少なくなり職員一人一人に量的な負担も多くなってくるので、業務の整理や見直しも必要になってくると感じる。また、私たち議員も自分でできることは自分でやるなど、職員の負担を極力減らすようにしていかなければならないと感じている。</p> |

| | |
|--|--|
| <p>県道に枝や大きな石が落ちていても取ってくれない。どこに言えばよいのか。</p> | <p>本来は、県道に関しては県の管轄であるが市役所に連絡してもらっても良い。</p> <p>道路などの異常を見つけた場合には、庄原市の公式ラインで通報することもできるようになっている。</p> |
|--|--|

(2) 自治振興区

NO. 3 庄原地域敷信地区

| 参加者意見 | 議員意見 |
|---|--|
| <p>政務活動費の使途について、庄原市議会は公正か。</p> | <p>政務活動にあたっては、参加前の調査・研修届出書や、研修後には1円単位での報告書を提出し、公開となっている。</p> |
| <p>何を学んでいるのかが、問題で、他地域のモノマネの段階は過ぎている。うまくいっていない所にも目を向けたらどうか。</p> | |
| <p>バイオマス事業に関連した新聞報道があった。現状についての報告と、今後どのような動きとなるのかの説明を求める。議会として見抜けなかった責任も問われる。前市長への同情論もある。</p> | <p>裁判の経過として、市が前市長に請求した損害賠償金が未払いだとして、支払いを求めた訴訟の判決があり、前市長に全額の支払いを命じた判決が出た。市は判決を踏まえ適切に対応することとしている。</p> <p>この件に関する議会の責任は「道義的責任」として結論を出しているが、議会としての総括議論の実施と集約は責務であると判断している。(バイオマス事業に関する特別委員会中間報告)</p> |

NO. 5 庄原地域北地区

| 参加者意見 | 議員意見 |
|---|---|
| <p>観光地図に重要な遺跡(例: 佐田谷・佐田峠墳墓群)が載っていない。行政に問い合わせても課をたらい回しにされることがある。</p> | <p>行政の連携不足については課題があると認識している。各課が多忙で横の連携が疎かになることが多いが、議会としても議論し、市に改善を求めている。</p> <p>文化財や観光地の整備は重要だが、国の予算が下りる順番待ちの状況もあり、すぐに宣伝ができないという現状がある。ただ、優先順位をつけて進めることが必要だと考えている。</p> |
| <p>横の連携が取れていないため、せっかくの資源が活用されていない。専門人材の不足も問題。</p> | <p>各課の縦割りのメリットはあるものの、横断的な連携が課題である。例えば、テーマごとに横断的に連携を進める仕組みづくりが必要だ。専門人材の配置も議会で議論していく。</p> |
| <p>地元働き口がないため、若者が市外に出ていく。移住促進と雇用対策を進めるべきではないか。</p> | <p>庄原市の将来を見据え、市民が「幸せ」と感じられるまちづくりを目指すべきである。議会としても、人口が少ない中でどのように市を運営していくべきか真剣に議論していく。</p> |

| | |
|--|--|
| | 若い女性への支援や地域の魅力を高めることが鍵だ。視察先で見た事例を参考に、庄原市でもアイデアを生み出していく必要がある。 |
| | 県立大学や環境譲与税など、庄原市独自の資源を最大限活用するべきだ。具体策を市とともに検討する。 |

NO. 6 西城地域西城地区

| 参加者意見 | 議員意見 |
|---|---|
| 議会の政務調査費について、返金額が多いと思うが、活用実態について説明してほしい。 | 会派によって活用は異なるが、残余额は返金となる。研修先は東京の割合が多く、一つの講義が2時間で15,000円程度、3講座程度の受講が多い。食費は自己負担であり、宿泊料金の上限も決まっている。最近はオンラインでの受講可能な研修もある。当然、研修についての報告は公開となっており、何を学び、それを庄原市にどう生かすことが出来るのか等、報告書の提出が求められている。他の自治体の中でも、費用については厳しいチェックを受けている。 |
| 議員定数削減と、議員報酬についていつ、どこで決まったのか。決定にかかる経緯を知りたい。定数を削減するから、報酬を上げろという理論に思える。 | 議長より諮問を受け、特別委員会を設け慎重審議を行った。定数と報酬については分けて議論している。市民アンケートも実施し、広島県内の各市町をはじめ、全国の実態も参考に議論を進めた。報酬については、市長による報酬審議会の答申を受け、市長により提案されるもので、議員間で額を決めるものではない。 |

NO. 10 東城地域東城地区

| 参加者意見 | 議員意見 |
|---|---|
| 市営住宅は3件入っているが、それ以外は空き家となっている。使っていない棟は取り壊してほしい。 | 市は古い不動産を除却したいと思っている。補助金が出ず、一般財源での対応となるので、なかなか進まない。昭和30～40年代に建築したものは、アスベストの関係で処分費が億単位と高額となる。市は基金を使いたがらない。除却の要望を委員会へ持ち帰る。 |
| JRの鉄橋は快適になったが、カーブが続き、冬はスリップ事故が頻繁に起こる。滑り止め置き場を設置するなどの対応が必要ではないか。 | 実態を見てから要望について考える。 |

NO. 16 総領地域総領地区

| 参加者意見 | 議員意見 |
|--|--|
| 市は草刈りはするが溝掃除はしてくれない。大雨で大水が出て大変だった。いつも枯れ葉が詰まって溢れるので、草刈りの時に溝掃除もしてもらえないか。 | 以前県道で同じことがあり、県に話したら小型重機で取ってもらえた。地域の区長などに相談してみたい。 |

| | |
|---|--|
| 海士町では町長が自分の給料を減らしてでも移住定住などに本気で取り組んでいる。庄原の市長はどう思っているのか。市政報告会などでも意見を聞いてもらえず、言いたい事だけ言って帰られた。本気で頑張る姿勢が見えない。 | 施政方針で市長が取り組むと言っている。海士町に市長や役職の職員が視察に行っているし、島留学のような「いちばん留学」の取り組みも今年度始めた。庄原市も変わるかもしれないと思っている。 |
|---|--|

9. 議会に対する意見・要望

(1) 井戸端スタイル

NO1. 庄原の人口問題を考える民間会議

| 参加者意見 | 議員意見 |
|--|------|
| 一般質問で深掘りして議論されることがない。本会議は政策議論なので、しっかり取り組んでほしい。 | |
| 市民意識の高まりの為に、情報共有の仕組みが不可欠である。庄原のためにデータを使いながら一般質問をしてほしい。明日の庄原のイメージを打ち出してほしい。 | |

NO4. 議員さんと語る会

| 参加者意見 | 議員意見 |
|--|------|
| 予算案や事業計画が議会に提出された後、市民に分かりやすく説明し、意見を反映させる機会を設けてほしい。 | |
| 議会の決定過程を市民に分かりやすく伝え、議会の意思決定に市民が参加できる仕組みを強化してほしい。 | |
| 事業の優先順位を議会内で横断的に決定し、市民の意見を反映させるための体制を整えてほしい。 | |

(2) 自治振興区

NO. 1 庄原地域庄原地区

| 参加者意見 | 議員意見 |
|---|------|
| 多世代の集いの場について、みんなが良かったと言える施設にしてほしい。そのためにも、議員や議会で注視してほしい。 | |

NO. 2 庄原地域峰田地区

| 参加者意見 | 議員意見 |
|---|------|
| タクシーがなくなったことによる困難。特に、救急車で病院に行った後、自宅に戻る手段がないことについての懸念があること。確認と今後について対応してほしい。 | |
| 人口が減少し、自治会が自治振興区から脱会している現状についての懸念があること。市の考えもだが、議員さんの考えや今後の対応についても考えてほしい。 | |

NO. 5 庄原地域北地区

| 参加者意見 | 議員意見 |
|--|------|
| 庄原市の長期総合計画に対し、議会がさらに積極的に関与し、市の目指す方向性を明確にしてほしい。 | |
| 議会として、人口減少や観光資源活用などに対して具体的な提案を行い、行政の取組が進展するよう監視機能を強化してほしい。 | |
| 必要に応じて新年度予算の修正や、条例制定などの施策を推進し、二元代表制としての役割を果たされたい。 | |
| 市民の意見をより多く取り入れ、実際の施策に反映させるための議会の姿勢や活動内容を明確化してほしい。 | |

NO. 6 西城地域西城地区

| 参加者意見 | 議員意見 |
|--|------|
| 要望書について、提出せよと言われるが、本来、市民の声を聞いて、議員も積極的に関わるべきではないか。市民がまとまるには難しい面もある。 | |

NO. 8 東城地域八幡地区

| 参加者意見 | 議員意見 |
|--|------|
| 市民のために地域交通を解決するために新しく地域交通課ができたのでは。議員も地域交通に乗ってみて、担当課と課題をひとつずつ潰して欲しい。どこの地域にどのくらい不便と感じている人がいるか議会も調査、把握するべきだと思う。 | |

NO. 12 東城地域久代地区

| 参加者意見 | 議員意見 |
|--|------|
| 若者が農業に関わりやすい環境を整備するための制度や仕組みづくりをしてほしい。 | |
| 比婆牛など特産品として推進する農産物に対し、地域の状況に適した振興策の検討してほしい。 | |
| 市が推進する小規模農家支援策の実施状況を追跡し、適切な支援が受けられるようにしてほしい。 | |

NO. 13 口和地域口和地区

| 参加者意見 | 議員意見 |
|--|------|
| 新聞の市長の予定を見ており、市長は農業関係の役が多いと思っている。どういう方向で国、県が農業を考えているのか、市がどう考えているのか、市長にしっかりと一般質問で聞いて、監視して欲しい。 | |
| 米の価格がまだ不十分だが、やっとまともな価格になった。これまでが悪すぎたということを数字で表し、しっかり要望して欲しい。農政なら農政のプロ、専門性を持って、議員活動に取り組んで欲しい。JAが広域化して声が届きにくいので、議員がリードして方策を取ってほしい。 | |
| 学校教育が素晴らしければ移住は増えると思う。特徴的な教育や農業施策など、ありきたりの質問ではなく、しっかりやってほしい。議員に気力が無いと感じる。 | |

NO. 15 比和地域比和地区

| 参加者意見 | 議員意見 |
|---|------|
| 市民と語る会から政策立案へつなげてもらえると、市民と語る会がより有意義なものになると思う。 | |

10. 執行者に対する意見・要望

(1) 井戸端スタイル

NO. 1 庄原の人口問題を考える民間会議

| 参加者意見 | 議員意見 |
|--|--|
| 市内の団体職員の所得は低く、市には、子どもを進学させるだけの所得等待遇改善を希望する。 | |
| DMOの立ち上げは、もともとはインバウンドへの対応・対策であったが、市が企画した水質や水量も考えていない事故のあったラフティングをはじめ、ほぼ赤字スレスレの事業となっており、待遇面を考えて欲しい。 | 市の職員は、国からの補助金がらみの事業が多く、独自の事業は難しい状況の中、一生懸命仕事をしていると思う。 1年間の一般財源の約300億円の内、30億円しか自主財源がない。国の補助金をつけて事業をしている現実がある。国の方針に沿った交付税をもらって事業をしている。 |
| 市の政策決定の過程において、コンサルタントの存在があるが、その成果はでているのか。 | |

| | |
|--|--|
| <p>比婆荘裏の公園で、子どもがボール遊びをしていた際、車にぶつ けてしまった。車の所有者から、市に対し、今後事故が起こらない よう、フェンス等を設置するなど対応を求められたが、市は設置さ れていたバスケットゴールを撤去し、ボール遊び禁止の看板を立て られた。教育委員会からはテレビ等のメディアに接触する時間低減 を求められているが、外の遊び場所を奪う対応について矛盾を感じ る。</p> | <p>市に対し、事実確認を行う。 ⇒井戸端スタイルを実施した当日に担当課に以下の内容を聞き取 り、翌日代表者にお伝えし、ご本人へのご連絡をお願いした。 【聞き取り内容】 比婆荘裏の公園は、もともとは小さい子どもの遊び場として整備 された。バスケットゴールは、民間の方が専用申請を出され、個人 的に設置されていた。 車との接触事故があったため、ボール遊び禁止の看板設置と同時 にバスケットゴールは撤去いただき、ボール遊び禁止の措置を行っ た。 今後、フェンスをもう少し高くするなどの検討をしているが、小 さい子どもの利用を想定した公園であり、広くないため、大きな子 どもさんがボール遊びをすることは難しいと考える。</p> |
| <p>永末小学校の件も、訴え続けているがなんの変化もない。今後、 どうなるのか、その経過の説明が欲しい。</p> | <p>永末小学校の件については、もう少しお待ちいただければ、良い ご報告が出来るかなと思う。</p> |
| <p>庄原は情報が飛び過ぎているのではないか。JRも含めて。情報発信 の基地を一本化してはどうか。</p> | |
| <p>庄原市人口減少対策戦略本部の構成員に、若者や女性等市民を入 れるべきではないか。</p> | |

NO. 2 三河内寿老人クラブ

| 参加者意見 | 議員意見 |
|---|------|
| <p>堆肥の補助金が10トン以上でないと補助金が出ないのは小規模 農家には厳しい。以前のように少ない量でも補助金が出るようにし てほしい。</p> | |
| <p>新規就農専用の窓口があれば新規就農しやすくなると思うので 専用窓口を作ってほしい。</p> | |

NO. 3 庄原の人口問題を考える民間会議

| 参加者意見 | 議員意見 |
|---|------|
| <p>人口減少について行政と話せる機会がないから議員に言うしか ない。市政懇談会で話せないのは問題だと思う。</p> | |
| <p>一般質問の答弁は課長ではなく市長がすべきだと思う。</p> | |
| <p>学校でひとり1台タブレット配布しているので、プログラミング など、子どもが楽しめる授業としてしっかり活用してほしい。教育 予算が少ないのもっと上げて欲しい。</p> | |

NO. 4 議員さんと語る会

| 参加者意見 | 議員意見 |
|---|------|
| <p>事業計画や予算案について、市民に早期に情報を提供し、変更点があればその都度説明を行ってほしい。</p> <p>市民が事業の必要性や理由を理解できるよう、広報を強化し、事業開始前に意見交換の機会を設けてほしい。</p> | |
| <p>予算案や事業計画の決定前に、市民の意見を反映させる仕組みを作り、市民の声を積極的に聴く場を提供してほしい。</p> | |
| <p>自治会に未加入の世帯への働きかけを強化し、地域コミュニケーションを改善するための対策を講じてほしい。</p> <p>孤独死を防ぐためにも、自治会が地域でのつながりを強化できるよう支援してほしい。</p> | |
| <p>限られた予算での優先順位を、市民が納得できる形で決定し、その過程を透明にしてほしい</p> | |

(2) 自治振興区

NO. 1 庄原地域庄原地区

| 参加者意見 | 議員意見 |
|---|------|
| <p>永末小学校の統廃合について、判断に使用した資料などを開示してほしい。</p> | |

NO. 2 庄原地域峰田地区

| 参加者意見 | 議員意見 |
|---|------|
| <p>大学生や子供たちに有機農業を体験させ、地域に定住してもらうことで人口減少対策につなげること。</p> | |
| <p>長期総合計画の評価指標を誰でも理解できるように見直すこと。</p> | |
| <p>空き家をリサイクルし、体験宿泊などに利用すること。</p> | |

NO. 5 庄原地域北地区

| 参加者意見 | 議員意見 |
|--|------|
| <p>庄原市の観光資源や歴史的な遺跡を計画的に活用し、市の地図や案内に反映するなど、情報発信力を強化してほしい。</p> | |
| <p>行政の内部連携を促進し、担当者の交代があっても対応が途切れない体制を整備してほしい。</p> | |
| <p>長期総合計画を基に、人口減少を抑え、若年層が定住できるような魅力あるまちづくりを実現するよう取り組んでほしい。</p> | |
| <p>移住者の住居や職場確保のために具体的な支援策を講じてほしい。</p> | |

| | |
|--|--|
| 課間の連携強化を図り、業務の効率化と市民サービスの向上を目指してほしい。 | |
| 職員数や業務量を見直し、業務に忙殺されない体制を構築されたい。 | |
| 地域で完結する経済環境を整備し、若者が地元で働き生活できる場を提供してほしい。 | |
| 若い世代への支援を充実させ、地域経済の活性化と若者の定住促進を図るよう取り組んでほしい。 | |

NO. 6 西城地域西城地区

| 参加者意見 | 議員意見 |
|---|------|
| 西城子ども支援センターの開所日が、週に2日間（火・木）しかない。他の日は庄原に行っている。子育ての支援として、開所日を増やしてほしい。旧保育所の園庭だけでも開放することはできないか。 | |

NO. 8 東城地域八幡地区

| 参加者意見 | 議員意見 |
|---|------|
| 自治振興区に人と車を配置してもらいたい。 | |
| 雄橋の案内看板の誤字が許せない。USAのAがない。観光振興にも教育にも影響がある。早く修正してほしい。 | |
| 自衛捕獲のための補助を増やし、捕獲数を増やしてほしい。 | |

NO. 9 東城地域田森地区

| 参加者意見 | 議員意見 |
|----------------------|------|
| 草刈りに対する金額の増額を強く要望する。 | |

NO. 11 東城地域帝釈地区

| 参加者意見 | 議員意見 |
|--|------|
| 人口減少は様々な要因はあるが、漠然とし過ぎている。答えを早く市民に示してほしい。 | |
| 庄原東城線の県道の改良工事が20年放置の状況である。今後の計画について示して欲しい。 | |

NO. 12 東城地域久代地区

| 参加者意見 | 議員意見 |
|---|------|
| 農業者の若者が雇用しやすくなるための補助金や賃金保障の制度づくりなどをしてほしい。 | |

| | |
|---|--|
| 肥料・飼料価格の高騰に対応した補助金の支給を行ってほしい。 | |
| サルなどの害獣対策のための柵設置に対する支援を行ってほしい。 | |
| 高齢農家や独り身の農業従事者に対する緊急時の支援や飼育サービスの提供が出来るようにしてほしい。 | |

NO. 13 口和地域口和地区

| 参加者意見 | 議員意見 |
|---|------|
| 市長答弁が本気でないと感じる。課長が用意した答弁書を読むだけでなく、ちゃんと市長の考えを答弁すべき。 | |
| 移住の希望も多く、移住者が移住者を呼ぶ状況が生まれている。ここで子育てが出来るということを伝えていきたいので、重要な子どもの施策をしっかりやってほしい。例えば医療費は500円とか言わずただで良いのではないか。通学にしても結構な距離を徒歩通学している。バスなどの手立てをしてやってほしい。 | |
| 全く雨が降っていなかったのに、避難命令を出し、避難所が開設された。広大な庄原市で気候が違うのは分かるが、費用も人件費も発生すること、本当の有事に避難できなくなる可能性もあることから、小学校区にエリアを絞って避難所を開設してほしい。 | |

NO. 14 高野地域高野地区

| 参加者意見 | 議員意見 |
|--|------|
| 介護を要する方の移動手段がない。市で福祉車両を購入してもらえないか。 | |
| おでかけわごんで庄原・三次に出たいのが本音。週3回病院に行くためのお金を市に出して欲しい。 | |
| 行政はいつも公平公正を理由にしてやらない。毎日こどもの通学の送迎をしている保護者。透析の通院も。雪も降る。同じ土俵で市全体を見て欲しい。市営バスを運行出来ないか。動けない市民を周りから助けるのが福祉じゃないのか。 | |

NO. 15 比和地域比和地区

| 参加者意見 | 議員意見 |
|--|------|
| 吾妻山の休憩所やトイレなど、県に要望しているがロッジの活用が思うようにつながらない。吾妻山の活用を考えてもらいたい。 | |

NO. 16 総領地域総領地区

| 参加者意見 | 議員意見 |
|---|------|
| <p>今年度地域交通再構築の計画をまとめて行政に出す予定。そもそも免許返納を町内で出来ない。庄原警察までも本人が一人で行けない状況。支所などで手続き代行が出来ないか。市民の立場で本気で考えて欲しい。</p> | |
| <p>市職員採用試験の年齢要件があまりに低い。帰って来て入りたいのに年齢要件で入れない方がいる。せつかく市のために働きたい方がいるのもったいない。枠を広げて欲しい。</p> | |
| <p>庄原市の農業が発展するか衰退するか、もっと本気で考えるべき。経費が高すぎる。毎年赤字続きじゃ誰もやらない。廃業する方も多い。地方交付金をもっと農業に充ててもらいたい。</p> | |

11. 市民と語る会の検証結果

(1) 開催会場の設定数について

【実施状況】

- ①井戸端スタイル 4件
- ②自治振興区 16会場（庄原5・西城1・東城6・口和1・高野1・比和1・総領1）

検証結果

- 令和3年度、4年度と団体からの申込が各1件に留まっていたが、昨年度より手上げ方式として、新たに開始した井戸端スタイルを本年度も継続実施した。結果、4件の申し込みがあり、件数自体は、昨年度より減少したが、申込みされた方自らが設定したテーマに対し、意見交換ができること等からアンケート結果は非常に高評価であった。今後は、より多くの方に申しただけのような手法について検討が必要である。
- 昨年度まで、自治振興区21会場を設定し実施していたが、継続を求める声がある一方で、アンケート等を通じて、参加者が役員に固定していることやテーマ設定に苦慮しているなどの意見が寄せられたことを考慮し、本年度は、事前に実施の意向を確認し、希望された自治振興区で実施する方法に改めた。結果、16の自治振興区から希望があり、地域的には全地域での開催となった。実施方法を改めたことで、各自治振興区でそれぞれが抱えられている課題に即したテーマ設定がなされたこと等、一定の改善は見られたが、アンケートから、動員による参加で、時間を長く感じた、参加された方の希望されたテーマでなく意見が出しにくかった等の意見もあり、継続した課題改善に向けた検討が必要な状況にある。

(2) 開催時期等について

【実施状況】

①井戸端スタイル

《開催結果》 7月：2件 10月：1件 11月：1件

※3月・6月・9月・12月の定例会実施月以外の期間で受付（令和7年1月以降は実施しない。）

《実施時間》 昼夜を問わず2時間以内

《日程調整》 申請者の実施希望日の2カ月前に申しただき、班の代表者と申請した団体等の代表者で協議し決定

②自治振興区

《開催回数》 開催を希望する自治振興区で年1回

《開催時期》 7月12日～11月22日

《実施時間》 平日を基本に昼夜を問わず2時間以内

《日程調整》 班の代表者と自治振興区の代表者で協議し決定

検証結果

- 井戸端スタイルについては、対応期間を広く設定したことで申し込みしやすい状況の確保に努めた
が、申込み件数は昨年度より減少した。次年度は、情報周知方法等、多くの申し込みが可能な手法を
検討する。
- 自治振興区については、事前に実施の意向を確認する方法に改めたことに併せて、昨年度まで11月
に限定していた開催時期を、広く設定可能な状況としたところ、各自治振興区の状況に応じた開催と
なった。時間については、平日を基本に昼夜を問わず2時間以内としたが、自治振興区との協議によ
りこれまで通り平日夜間の開催となった。

(3) 実施内容等について

【実施状況】

①井戸端スタイル

- ・意見交換テーマは原則申請時に希望された内容で実施
- ・参加者を対象にアンケートを実施

②自治振興区

- ・意見交換テーマは班の代表者と自治振興区の代表者で会場毎に協議し決定
- ・参加者を対象にアンケートを実施

検証結果

- 井戸端スタイルについては、申請者が希望するテーマを設定し、そのことを目的に参集された方々
との意見交換であるため、非常に活発なやり取りが行われた。アンケートについても、非常に高評価で
あり、取り組みの継続を望む意見が多くみられた。
- 自治振興区については、アンケートの結果から、継続を望むものも多くあったが、引き続き動員等
で参加をされている状況が見られた。また、不特定の方が集まられることで、希望されたテーマとな
らなかったことや、進行に対する課題提起をされる意見が見られた。
- アンケートについては、実施結果を客観的に判断できるツールであるため、次年度以降も引き続き実
施する。

(4) 班編成について

【実施状況】 ※井戸端スタイル、自治振興区共通

- ・議長を含む5人単位で4班編成
- ・自治振興区全16会場に対し各班それぞれ4会場を担当
- ・井戸端スタイルは申込数に応じ、1班から順に担当

検証結果

- 体調不良等、都合で欠席せざるを得なかった議員もあったが、5人体制で編成していたため、欠員が
生じても運営、進行に支障をきたすことなく対応できた。また、より多くの方が申し込めるよう申込

期間を長く設定することとし、4月当初から井戸端スタイル募集を開始することに併せ、班体制については前年の体制を引き継ぎ、各常任委員会から必ず1名班に加わる状況を確認したことで、市民の方から出された様々な意見に対応することができた。一部、地元出身議員に対応してほしいとの意見も継続してあったが、出身議員がいない地域もあり、特定の議員に対応が集中することがないよう、班編成については、これまで通り常任委員会を基本とした対応とする。

(5) 運営等について

【実施状況】※井戸端スタイル、自治振興区共通

- ・ 役割分担は各班で決定し、記録は班員（記録者）による要点記録とする
- ・ 時間配分は2時間以内とし、各班で時間配分を決定
- ・ 進行について、井戸端スタイルは原則申請者の進行により実施
- ・ 進行について、自治振興区は次第により次のとおり実施
受付（アンケート配布）→開会（挨拶）→趣旨説明等→意見交換・懇談→閉会（挨拶）
- ・ 配布資料は各班で準備（共通テーマ分については、班長会議によりすり合わせを行い同一の資料で対応）

検証結果

- 役割分担、時間配分は各班において決定し、対応した。記録に基づく報告は、記録者が作成後、班長に提出し、班内で内容を確認したものを、実施日から1週間以内に事務局へ提出することとしたが、概ねスムーズに対応できた。
- 配布資料の調整は各班で対応することとし、レジュメ及び資料の印刷及び手持ち資料の議員所有タブレットへの掲載は、班長から必要部数の報告を受け事務局にて行った。
- 会場レイアウトについては、教室形式の会場が多かったが、会場や参加人数等の状況により口の字形で行った会場もあり、何れの形式でも大きな課題はあげられていないため、今後も状況に応じ臨機応変に対応する。

(6) 周知方法について

【実施状況】※井戸端スタイル、自治振興区共通

- ・ 行政文書（井戸端スタイル4/5発行、自治振興区6/5発行 全世帯に開催チラシを配布）
- ・ 住民告知放送、市議会ホームページへの掲載、庄原市公式LINE配信
- ・ 議員の積極的な働きかけ等

検証結果

- 行政文書によるチラシ各戸配布、住民告知放送、市議会ホームページへの掲載のほか、各議員から地域に出向いた際に案内することなどで周知を図った。行政文書によるチラシ配布開始日のタイミングで、市内全域に向け夕方と朝にそれぞれ一度放送したが、募集から実施まで、期間が空く会場もあり、また、井戸端スタイルについては、申込み件数が昨年度より減少した状況もあるため、適切な情報発信のあり方について検討する。

- その他、他の有効な周知方法について随時検討し、より良い方法を検討する。

(7) 災害等による開催可否の対応について

【実施状況】※井戸端スタイル、自治振興区共通

- ・ 災害等による開催可否の判断は開催時間の2時間前に決定するとしており、7月8日に予定していた東城地域田森地区において、実施日当日、新型コロナウイルス感染症の影響により延期を決定し、地域限定放送等で対応した。
- ・ 延期、中止等の対応をあらかじめ調整

検証結果

- 今年度、新型コロナウイルス感染症の影響により、開催日当日に延期を決定せざるを得ない状況が生じたが、自治振興区の協力により、大きな混乱をきたす状況には至らなかった。今後も、事前に申込代表者の方や自治振興区と災害等の状況の際の対応を決定し、共有しておくことで、いざという時に混乱なく対応ができるよう調整する。

(8) 報告及び公表について

【実施状況】※井戸端スタイル、自治振興区共通

- ・ 実施内容を、議員全員協議会において班の代表者より報告し、議員間で情報共有及び意見交換を実施
- ・ 成果、効果及び今後の課題等を検証
- ・ 語る会で出された市民の意見、要望等は、一般質問や所管事務調査及び予算審査等に活用
- ・ 最終報告書を市議会ホームページに掲載
- ・ 実施概要を、しょうばら市議会だより（2/20発行）に掲載

検証結果

- 各班から提出された報告書に基づき、本報告書作成及びアンケート結果の集約を行い、議会運営委員会・議員全員協議会にて成果、効果及び今後の課題等の検証を行った。
- 最終報告書については、市議会ホームページに掲載した。
- 今年度の市民と語る会の実施結果概要について、議会広報委員会に諮り2/20発行の市議会だよりに掲載する。
- 市民と語る会は、意見交換を目的としたものであり、各会場で出されたご意見やご要望に対しては、議員各自の思いや判断でお答えしているため、議会としての対応は行わないが、検証の中で、委員会で取り上げるべきものと判断したものについては委員会へ諮り、また、議員個人が必要と判断した場合、一般質問や予算審査等で取り上げていくこととしており、今後も継続する。
- 委員会活動や一般質問等で取り上げた内容は、適宜、市議会ホームページや市議会だよりに掲載し公表する。

(9) その他について

【実施状況】※井戸端スタイル、自治振興区共通

- ・意見交換に重点を置いた内容とし、一議員としてテーマや意見交換での発言を積極的に実施した
- ・自治振興区での取り組みでは、司会役の議員がより多くの参加者が発言できるよう配慮した
- ・議会に対する意見、要望には結論を出さず、市民意見の聴取を目的とした意見交換に努めた
- ・執行者に対する意見、要望には、執行者に代わって受け付けたと取られない対応に配慮した
- ・議員派遣手続きを行った

検証結果

- できるだけ参加いただいた方が発言されやすいよう、進行に努めたが、一部の会場で、同じ方に発言が集中する場面があった。また、アンケートの中では、進行役の発言時間が長い等の意見があった。
- 議会や執行者に対する意見・要望等は、そのまま受け付けるのではなく、市民の多様な意見を把握する手段として聴取に努め、今後の議員活動に反映させていくこととした。
- 市民と語る会は公務であるため、令和6年6月・9月及び12月定例会において議員派遣手続きを行った。
- 市の施策、議会の取組みの説明が十分行えない場面があったため、説明・意見交換が行えるよう事前準備に努める。

※令和7年度は改選期となるため、新たな第6期庄原市議会の体制において、以上の検討結果を踏まえ、本取組みのあり方について早期に検討し、方針決定後は速やかに方針に基づく対応を行う。